朝鮮労働党について

朝鮮労働党について

朝鮮・平壌
外国文出版社
チュチェ105(2016)

2016年５月初めに平壌で朝鮮労働党第７回大会が開かれる。

朝鮮人民の社会主義偉業と祖国統一偉業の遂行にとっては言うまでもなく、世界の正義と進歩を目指す人類の自主偉業の遂行にとっても大きな意義を有する朝鮮労働党第７回大会の開催と関連して、世界の多くの人々が朝鮮労働党に強い関心と興味を示している。

朝鮮労働党はどんな党なのか？

この問いに答えるためにＱ＆Ａ『朝鮮労働党について』を刊行する。

編 集 部

目　　次

１．朝鮮労働党の象徴は何か？……………………1
２．朝鮮労働党の性格は何か？……………………1
３．なぜ朝鮮労働党を金日成、金正日同志の
党と言うのか？……………………………………2
４．朝鮮労働党の指導思想は何か？………………5
５．朝鮮労働党の基本使命は何か？………………6
６．朝鮮労働党の当面の目的は何か？……………6
７．朝鮮労働党の最高目的は何か？………………6
８．朝鮮労働党の活動の最高原則は何か？………6
９．朝鮮労働党の活動の基本は何か？……………6
10．朝鮮労働党建設の基本原則は何か？…………7
11．朝鮮労働党は革命的党建設の新しい道を
どのように切り開いたのか？……………………8
12．朝鮮労働党創立の出発点は何か？……………8
13．卡倫会議で提示された党創立方針は何か？……9
14．新しい世代の革命家の最初の党組織は何か？……12

15. 朝鮮人民革命軍党委員会はどんな意義を
持つのか？…………………………… 12
16. 抗日武装闘争の時期に党組織建設事業は
どのように行われたのか？……………… 13
17. 朝鮮労働党はいつ創立されたのか？……… 15
18. 朝鮮労働党はどのように大衆的党として
建設されたのか？……………………… 16
19. 朝鮮労働党は祖国解放戦争の時期にどの
ように強化され、発展したのか？……… 17
20. 朝鮮労働党は戦後、主体性を確立し、
統一団結を強化するうえでどのような
転換をもたらしたのか？………………… 18
21. 朝鮮労働党の建設と活動で根本的な転換は
どのようにもたらされたのか？………… 19
22. 朝鮮労働党は革命と建設をどのように
導いてきたのか？……………………… 20
23. 朝鮮労働党は主権問題をどのように
解決したのか？………………………… 21
24. 朝鮮労働党は反帝反封建民主主義革命を
どのように遂行したのか？……………… 22
25. 朝鮮労働党は社会主義革命をどのように
遂行したのか？………………………… 23
26. 朝鮮労働党は３大革命をどのように
遂行してきたのか？…………………… 24

27. 朝鮮労働党は経済建設をどのように指導
してきたのか？ …………………………… 25
28. 朝鮮労働党は経済管理の問題をどのように
解決してきたのか？ ………………………… 25
29. 朝鮮労働党は軍事事業をどのように
進めてきたのか？ …………………………… 26
30. 朝鮮労働党は祖国統一のためにどのように
闘ってきたのか？ …………………………… 27
31. 朝鮮労働党は対外活動をどのように
展開してきたのか？ ………………………… 29
32. 朝鮮労働党の指導芸術で重要なのは何か？ …… 30
33. 朝鮮労働党の活動体系で重要なのは何か？ …… 31
34. 朝鮮労働党の活動方法で重要なのは何か？ …… 32
35. 朝鮮労働党の活動作風で重要なのは何か？ …… 32
36. 党創立事績館はどんな事績館なのか？ ……… 33
37. 北朝鮮共産党中央組織委員会創立大会は
どんな大会なのか？ ………………………… 34
38. 北朝鮮共産党中央組織委員会第１回
拡大執行委員会はどんな会議なのか？ ……… 36
39. 北朝鮮共産党中央組織委員会第２回
拡大執行委員会はどんな会議なのか？ ……… 37

40.　北朝鮮共産党中央組織委員会第３回
拡大執行委員会はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥　40

41.　北朝鮮共産党中央組織委員会第５回
拡大執行委員会はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥　41

42.　北朝鮮共産党中央組織委員会第７回
拡大執行委員会はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥　43

43.　北朝鮮共産党中央組織委員会第８回
拡大執行委員会はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥　44

44.　北朝鮮労働党創立大会はどんな大会なのか？‥‥　47

45.　北朝鮮労働党中央委員会1946年９月
第２回会議はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥‥‥　49

46.　北朝鮮労働党中央委員会1947年３月
第６回会議はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥‥‥　50

47.　北朝鮮労働党中央委員会1947年10月
第10回会議はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥‥‥　52

48.　北朝鮮労働党中央委員会1948年２月
第12回会議はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥‥‥　53

49.　北朝鮮労働党第２回大会はどんな大会なのか？‥‥‥　55

50.　北朝鮮労働党中央委員会1948年７月
第２回会議はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥‥‥　57

51.　北朝鮮労働党中央委員会1948年９月
第３回会議はどんな会議なのか？‥‥‥‥‥‥‥‥　58

52．北朝鮮労働党中央委員会1949年２月
第５回会議はどんな会議なのか？ ……………… 60
53．北朝鮮労働党中央委員会1949年６月
第６回会議はどんな会議なのか？ ……………… 62
54．朝鮮労働党中央委員会第２回総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 65
55．朝鮮労働党中央委員会第３回総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 66
56．朝鮮労働党中央委員会第４回総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 69
57．朝鮮労働党中央委員会第５回総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 70
58．朝鮮労働党中央委員会第６回総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 72
59．朝鮮労働党中央委員会第７回総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 74
60．朝鮮労働党中央委員会1954年３月総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 75
61．朝鮮労働党中央委員会1954年11月総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 77
62．朝鮮労働党中央委員会1955年４月総会は
どんな会議なのか？ …………………………… 78
63．朝鮮労働党第３回大会はどんな大会なのか？ …… 80

64. 朝鮮労働党中央委員会1956年8月総会は
どんな会議なのか？………………………… 83

65. 朝鮮労働党中央委員会1956年12月総会は
どんな会議なのか？………………………… 84

66. 朝鮮労働党中央委員会1957年12月
拡大総会はどんな会議なのか？……………… 86

67. 朝鮮労働党第１回代表者会はどんな
会議なのか？………………………………… 88

68. 朝鮮労働党中央委員会1958年9月総会は
どんな会議なのか？………………………… 89

69. 朝鮮労働党中央委員会1960年８月総会は
どんな会議なのか？………………………… 91

70. 朝鮮労働党第4回大会はどんな大会なのか？ ……… 93

71. 朝鮮労働党中央委員会第４期第３回
拡大総会はどんな会議なのか？……………… 95

72. 朝鮮労働党中央委員会第４期第５回総会は
どんな会議なのか？………………………… 96

73. 朝鮮労働党中央委員会第４期第６回総会は
どんな会議なのか？………………………… 98

74. 朝鮮労働党中央委員会第４期第８回総会は
どんな会議なのか？………………………… 100

75. 朝鮮労働党中央委員会第４期第９回総会は
どんな会議なのか？………………………… 101

76. 朝鮮労働党中央委員会第４期第10回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 103
77. 朝鮮労働党中央委員会第４期第13回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 105
78. 朝鮮労働党第２回代表者会はどんな会議なのか？…… 106
79. 朝鮮労働党中央委員会第４期第14回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 109
80. 朝鮮労働党中央委員会第４期第15回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 110
81. 朝鮮労働党中央委員会第４期第20回
拡大総会はどんな会議なのか？ ……………… 112
82. 朝鮮労働党第５回大会はどんな大会なのか？ …… 113
83. 朝鮮労働党中央委員会第５期第４回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 116
84. 朝鮮労働党中央委員会第５期第６回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 118
85. 朝鮮労働党中央委員会第5期第8回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 119
86. 朝鮮労働党中央委員会第５期第10回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 121
87. 朝鮮労働党中央委員会第５期第14回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 122
88. 朝鮮労働党中央委員会第５期第16回総会は
どんな会議なのか？ ………………………… 124

89．朝鮮労働党第６回大会はどんな大会なのか？…… 126
90．朝鮮労働党中央委員会第６期第３回総会は
どんな会議なのか？………………………………… 128
91．朝鮮労働党中央委員会第６期第９回総会は
どんな会議なのか？………………………………… 130
92．朝鮮労働党中央委員会第６期第19回総会は
どんな会議なのか？………………………………… 131
93．朝鮮労働党中央委員会第６期第21回総会は
どんな会議なのか？………………………………… 133
94．党創立記念塔はどんな記念碑なのか？………… 135
95．朝鮮労働党中央委員会、党中央軍事委員会の
特別報道はどんな報道なのか？…………………… 136
96．朝鮮労働党第３回代表者会はどんな
会議なのか？………………………………………… 137
97．朝鮮労働党第４回代表者会はどんな
会議なのか？………………………………………… 138
98．朝鮮労働党中央委員会2013年３月総会は
どんな会議なのか？………………………………… 141
99．朝鮮労働党中央委員会2015年２月政治局
拡大会議はどんな会議なのか？…………………… 142
100．朝鮮労働党第７回大会はどんな大会に
なるのか？…………………………………………… 143

１．朝鮮労働党の象徴は何か？

　朝鮮労働党の象徴には党マークと党旗がある。

　党マークは、ハンマーと鎌、筆が一カ所で交わるように描かれた朝鮮労働党の象徴的標識である。党マークは、朝鮮労働党が領袖を中心として組織的、思想的に固く団結した労働者、農民、知識人をはじめ勤労人民大衆の前衛部隊であり、人民大衆の間に深く根をおろし、人民大衆の要求と利益のために闘う革命的で、大衆的な党であることを象徴する。

　党旗は、赤旗の中心に党マークがしるされている朝鮮労働党の象徴的旗である。党旗は、偉大な金日成（キムイルソン）・金正日（キムジョンイル）主義を指導思想とし、チュチェの革命伝統を純粋に受け継ぎながら全人民を党と領袖の周りに固く結束させて、チュチェの革命偉業をあくまで成し遂げる朝鮮労働党の革命的で、大衆的な性格と不屈の意志、闘争精神を象徴する。

２．朝鮮労働党の性格は何か？

　朝鮮労働党の性格は一言で言って、革命的で大衆的な党だということである。

朝鮮労働党は、労働者、農民、知識人をはじめ勤労人民大衆の間に深く根をおろし、彼らの中で社会主義偉業の勝利のために献身する先進闘士によって組織した労働者階級の革命的党、勤労人民大衆の大衆的党である。

朝鮮労働党は、勤労人民大衆のすべての政治組織の中で最も高い形態の政治組織であり、政治、軍事、経済、文化をはじめすべての分野を統一的に導いていく社会の指導的政治組織であり、革命の参謀部である。

朝鮮労働党は、金日成主席と金正日総書記を永遠に高く仰ぎ、金正恩（キムジョンウン）第１書記を中心として組織的、思想的に固く結びついた労働者階級と勤労人民大衆の中核部隊、前衛部隊である。

朝鮮労働党は金日成、金正日同志の党である。

３．なぜ朝鮮労働党を金日成、金正日同志の党と言うのか？

金日成主席は朝鮮労働党の創立者であり、党と革命を百戦百勝の道に導いてきた卓越した指導者であり、朝鮮労働党と朝鮮人民の永遠なる領袖である。

金日成主席は、不滅のチュチェ思想を創始し、抗日革命の炎の中で築いた党創立の組織的・思想的基礎と輝かしい革命伝統に基づいて栄えある朝鮮労働党を創立し、朝鮮労働党を思想・意志のうえで統一団結し、高い組織性と規律性をそなえた鋼鉄の党、人民大衆の絶対的な支持と信頼を受ける強力な党、チュチェ革命の代を継いでいく不敗の党として強化し、発展させた。主席は、革命武力と人民政権を創建し、革命の主体的力量を一段と強化した。また抗日革命闘争と祖国解放戦争(朝鮮戦争)、民主主義革命と社会主義革命を勝利に導いて民族解放、階級解放の歴史的偉業を成し遂げ、社会主義建設を強力に推進して朝鮮に自主、自立、自衛によって威容を轟かす人民大衆中心の社会主義国を打ち立て、祖国の統一と人類の自主偉業遂行に大きく貢献した。

金正日総書記は、朝鮮労働党を金日成同志の党として強化し、発展させ、先軍革命指導を勝利に導いてきた卓越した指導者であり、朝鮮労働党の永遠なる総書記であり、朝鮮労働党と朝鮮人民の永遠なる領袖である。

金正日総書記は、チュチェ思想を自主時代の偉大

な指導思想として深化、発展させ、朝鮮労働党を唯一思想体系と唯一的指導体系が確立した思想的純潔体、組織的全一体として建設した。また、朝鮮労働党を、人民大衆と渾然一体となり、人民大衆の運命を責任を持って見守る母なる党、高い指導力をそなえた老練で洗練された党、指導の継承性を確実に保障した前途洋々たる党として強化し、発展させた。総書記は、全社会の金日成主義化を党の最高綱領として打ち出し、革命と建設のすべての分野で奇跡と変革の新しい歴史を創造した。また、先軍の旗を高く掲げて国と民族の自主権を固守し、金日成朝鮮を一心団結した政治・思想強国、無敵の軍事強国にするとともに、朝鮮に強盛・繁栄の全盛期を開き、祖国統一と世界の自主化偉業遂行の画期的局面を切り開いた。

金日成主席と金正日総書記は、天才的な英知と非凡な指導力、不屈の意志と人民に対する熱烈な愛をそなえ、党の強化、発展と人民の幸福のために生涯を捧げた卓越した思想家・理論家、傑出した指導者、人民の慈父である。

朝鮮労働党は金日成主席と金正日総書記の聖な

る革命的生涯と貴い業績を千秋万代に輝かせるであろうし、金日成主席と金正日総書記の偉大な尊名は朝鮮労働党とともに永久に不滅であろう。

４．朝鮮労働党の指導思想は何か？

朝鮮労働党の指導思想はチュチェ思想を真髄とする金日成・金正日主義である。

チュチェ思想は朝鮮労働党建設と活動の出発点であり、党の組織的・思想的強化の基礎である。チュチェ思想は、革命と建設を導くうえで朝鮮労働党の指導指針となる。

朝鮮労働党は、チュチェ思想を指針として革命と建設の路線と戦略戦術を立て、人民大衆の力を頼み、大衆の創造力を引き出して党の路線と政策を貫徹する。

朝鮮労働党は常にチュチェ思想の旗印を高く掲げて前進してきた。党は、チュチェ思想を具現するための闘争の過程で創立され、強化され発展し、チュチェ思想を具現して革命と建設を勝利に導いてきた。

５．朝鮮労働党の基本使命は何か？

朝鮮労働党は、金日成主席と金正日総書記の偉業、チュチェの革命偉業の勝利のために闘う。

６．朝鮮労働党の当面の目的は何か？

朝鮮労働党の当面の目的は、共和国北半部で社会主義強盛国家を建設し、全国的範囲で民族解放民主主義革命の課題を遂行することである。

７．朝鮮労働党の最高目的は何か？

朝鮮労働党の最高目的は、全社会を金日成・金正日主義化して人民大衆の自主性を完全に実現することである。

８．朝鮮労働党の活動の最高原則は何か？

朝鮮労働党は人民生活を絶えず向上させることを党活動の最高原則とする。

９．朝鮮労働党の活動の基本は何か？

朝鮮労働党は対人活動を党活動の基本とする。党は思想を基本としてとらえ、人民大衆の精神力を発

揮させてすべての問題を解決していく。

10. 朝鮮労働党建設の基本原則は何か？

朝鮮労働党が党建設で堅持している基本原則は、第一に党内に唯一思想体系を確立することであり、第二に党が大衆と渾然一体となることであり、第三に党建設で継承性を保障することである。

党建設で唯一思想体系を確立するというのは、全党を一つの革命思想で一色化し、それに基づいて指導の唯一性を保障することを意味する。党内に唯一思想体系を確立してこそ、党が自らの革命的性格を固守し、隊伍の組織的・思想的団結を成し遂げることができ、革命の参謀部としての機能と役割を立派に果たすことができる。

人民大衆と渾然一体となるのは、人民大衆のために闘い、人民大衆に依拠して活動する労働者階級の党本来の要求である。労働者階級の党は人民大衆と渾然一体となってこそ必勝不敗の党になれる。

革命運動と党建設の偉業は代を継いで続けられる長期的な事業である。党の偉業を継承するうえでの基本は、政治的領袖の後継者問題を正しく解決し、

その指導を実現するための組織的・思想的基礎を築き、指導体系を確立することである。労働者階級の党は、党と革命に限りなく忠実であり、全社会に対する政治的指導を立派に実現しうる品格と資質をそなえた人民の指導者を後継者として押し立てなければならない。

11．朝鮮労働党は革命的党建設の新しい道をどのように切り開いたのか？

朝鮮労働党は、金日成主席と金正日総書記の指導の下に、自主時代の革命的党建設の新しい道を切り開き、その立派な模範を創造した。

打倒帝国主義同盟から根を下ろしはじめた時から90星霜の栄光に満ちた闘争の道程を歩んできた朝鮮労働党は、その道で歴史にとわに輝く偉大な業績を積み上げ、固く統一団結し、豊かな経験を持つ強力な革命的党に成長した。

12．朝鮮労働党創立の出発点は何か？

初期共産主義運動で紆余曲折を経た朝鮮革命は、あらゆる試練を乗り越えて革命を勝利に導くこと

のできる戦闘的な党を切実に求めた。

朝鮮革命のこの切実な要求は、金日成主席が革命の陣頭に立つことによって解決された。日帝統治の最も暗たんとした時期に朝鮮革命の陣頭に立った金日成主席は、革命の新しい道を切り開くため、正しい闘争綱領を持ち、大衆に依拠して反日民族解放闘争を繰り広げる革命組織をつくることを構想し、1926年10月17日に打倒帝国主義同盟（略称「ㅌ(トゥ)・ㄷ(ドゥ)」）を結成した。

「ㅌ・ㄷ」の結成は、朝鮮における従来の党と区別される新しいタイプの党、チュチェ型の革命的党創立のための闘いの出発点となった。「ㅌ・ㄷ」の綱領は朝鮮労働党綱領の基礎となり、「ㅌ・ㄷ」が打ち出した自主性の原則は朝鮮労働党建設と活動の原則となり、「ㅌ・ㄷ」が育てはじめた新しい世代の革命家は朝鮮労働党創立の根幹となった。

13. 卡倫会議で提示された党創立方針は何か？

金日成主席は、歴史的な卡倫会議（1930.6.30～7.2）で朝鮮革命の主体的路線を打ち出し、革命的党創立の独創的な道を示した。

卡倫会議で提示された党創立方針で何よりも重要なのは党を自主的に創立することであった。

党を自主的に創立するという方針は革命運動本来の要求を反映したものであった。革命運動はそれぞれの国で人民大衆の自主性を実現するための闘争であり、その担い手、主人はその国の革命家と人民自身である。それぞれの国で労働者階級の党を創立するのも、あくまでもその国の革命家が主人となって自力で成し遂げなければならない事業である。

党を自主的に創立するという方針は、新たな発展段階に入った世界革命運動の要求にも合致するものであった。労働者階級と人民大衆の革命闘争が世界的範囲で幅広く、多様に繰り広げられるにつれて、それぞれの国の革命はその国の共産主義者が責任を持って自主的に行わないことには正しく前進させることができなくなった。これは、それぞれの国で党を創立する事業もその国の革命家が責任を持って自主的に行うことを求めた。

卡倫会議で提示された党創立方針で重要なのはまた、基層党組織を先につくり、それを拡大強化する方法で党を創立し、党創立の準備活動を反日闘争

と密接に結びつけて進めることであった。
　基層党組織を先につくり、それを拡大強化する方法で党を創立するという方針は、朝鮮の具体的な現実を正しく反映したものであった。当時、朝鮮で共産主義者と自任していた人々は、ほとんどが他国を仰ぎ見ながら派閥争いをこととし、党を破壊した分派事大主義者であった。すでに解散した党を「再建」したり分派事大主義に染まった既存の世代に依拠したのでは、決して革命的党を創立することはできなかった。革命的党を創立するためには、古い党や分派事大主義に染まった既存の世代と縁を切り、清新な新しい世代の革命家を育てなければならず、革命隊伍の思想・意志の統一を実現し、大衆との連係を強めなければならなかった。基層党組織を先につくり、絶えず拡大強化してこそ、組織・思想生活と実際の闘争を通じて労働者、農民出身の新しい世代の革命家を早く育てることができ、革命隊伍の思想・意志及び行動の統一と純潔性を保障し、党の大衆的基盤を築くことができた。また、党創立の準備活動を反日闘争と密接に結びつけて進めてこそ、闘争の過程で鍛えられ、点検された中核を立派に育て

ることができ、党を闘争力の強い戦闘的部隊として建設することができた。

14. 新しい世代の革命家の最初の党組織は何か？

金日成主席は1930年７月３日、卡倫で新しい世代の革命家で建設同志社を結成した。

建設同志社はチュチェ思想を指導思想とする最初の党組織であった。最初の党組織の結成は、朝鮮の革命と党創立のための闘いにおいて一大転換の端緒を開いた歴史的な出来事であった。

金日成主席は最初の党組織を母体として各地に党組織を拡大していった。

15. 朝鮮人民革命軍党委員会はどんな意義を持つのか？

金日成主席が1932年4月25日に創建した反日人民遊撃隊が1934年３月に朝鮮人民革命軍に改編され、朝鮮人民革命軍党委員会が設けられたことは、朝鮮革命運動と朝鮮労働党建設にとって重要な意義を持つ出来事であった。

朝鮮人民革命軍党委員会が設けられることによ

って各級党組織に対する統一的な組織・指導体系が確立し、より組織化された主体的な革命勢力に依拠して抗日武装闘争と党組織建設事業が一層活発に展開されるようになった。

16．抗日武装闘争の時期に党組織建設事業はどのように行われたのか？

金日成主席は、1930年代前半に得た成果に基づいて党組織建設事業を一層力強く推し進めた。

金日成主席は1936年２月、南湖頭で朝鮮人民革命軍軍事・政治幹部会議を招集し、党創立の準備活動を全国的な範囲で力強く進め、情勢が熟せば直ちに党を創立できるように、党創立の組織的・思想的基礎を強固に築くという方針を提示した。主席は、南湖頭会議の方針に従って朝鮮人民革命軍部隊内の各級党組織を固める一方、国内と満州一帯の朝鮮人居住地域に党組織をさらに拡大するようにし、それに対する指導を強化するため、1936年３月に東満党工作委員会を、12月に国内党工作委員会を、1937年２月に長白県党委員会を設けた。全国的な範囲で党組織が拡大され、朝鮮人民革命軍党委員会から地方

の党組織に至るまで統一的な党組織指導体系が確立されることによって、すべての党組織と朝鮮革命運動全般に対する金日成主席の指導が確実に保障されるようになった。

主席が1936年５月５日に祖国光復会を創立したことは、労働者、農民をはじめ各階層の人民大衆を抗日の旗印の下に結束し、党の大衆的基盤を強化するうえで歴史的意義を持つ出来事であった。党組織と革命家は広範な人民大衆を祖国光復会に結束させ、朝鮮革命の主体的な路線と方針を実現する闘いに立ち上がらせた。

金日成主席は、党及び共青幹部会議と軍事・政治幹部会議で各時期の朝鮮革命遂行のための正確な路線と戦略戦術を打ち出した。これは、チュチェ思想に基づく革命隊伍の思想・意志及び行動の統一を保障し、朝鮮の革命家と人民が困難な状況下にあっても、常に明確な指針を持って闘うことができるようにした決定的保証となった。当時の状況下で、党及び共青幹部会議と軍事・政治幹部会議は党の組織的意思を反映する会議であり、党の指導を実現する重要な方途であった。

朝鮮人民革命軍内に組織された党組織は、党員と遊撃隊員に金日成主席が提示した路線と戦略戦術的方針を解説し、それを貫徹させた。国内外の各地域に組織された党組織は広範な大衆の間に深く根を下ろし、労働者、農民、青年の学生をはじめ各階層の人民を反日闘争に立ち上がらせる教育者、組織者の役割を果たした。朝鮮の革命家と人民は比類なく困難な状況下でも、自分の党組織を持ち、その指導の下に闘ったので、反日民族解放闘争を絶えず高揚へ導き、その最終的勝利を早めることができた。

17. 朝鮮労働党はいつ創立されたのか？

金日成主席は抗日革命闘争の時期に得た党建設の成果と経験に基づいて解放後速やかに各地に党組織をつくり、1945年10月10日、北朝鮮共産党中央組織委員会を創設した。

これは、金日成主席の指導の下に長期間にわたって進められてきた党創立の偉業を達成した歴史的な出来事であった。党創立の歴史的偉業の達成は、チュチェ思想を指導思想とする新しいタイプの革命的党の誕生を全世界に告げる厳かな宣言であっ

た。党創立の歴史的偉業が達成されることによって、朝鮮の労働者階級と勤労者大衆は百戦百勝の自分の党を持ち、党の指導の下に新社会の建設を確信を持って推し進めていくことができるようになった。

18. 朝鮮労働党はどのように大衆的党として建設されたのか？

政権党としての朝鮮労働党の建設史は、党の隊伍を拡大し、組織的、思想的に強化する過程であった。ここで第一の問題は、党を急速に大衆的党として発展させることであった。

金日成主席は新たな情勢と党発展の合法則的要求を推し量り、党を大衆的党として建設するという組織路線を打ち出し、1946年８月、共産党を他の勤労者党と統合して勤労者大衆の統一的党である労働党を結成した。共産党が適時に他の勤労者党と合同し、労働者階級とともに農民、知識人の先進分子を党に多く受け入れることによって、勤労者大衆の統一を確実に保障し、大衆との連係を一層強めることができ、各階層の大衆を立ち上がらせて革命と建設を勝利に向けて推し進めることができた。

19．朝鮮労働党は祖国解放戦争の時期にどのように強化され、発展したのか？

米帝の武力侵攻に反対する祖国解放戦争（1950～1953）は朝鮮労働党にとって厳しい試練であった。

金日成主席は、厳しい戦時下に数回にわたって党中央委員会総会を招集し、党を組織的、思想的に一層強化するよう導いた。党中央委員会第３回総会を通じて、戦略的な一時的後退の時期に現れた無規律な行為が克服され、党内に革命的規律が確立した。党中央委員会第４回総会を通じて、党の組織活動に現れた極左的な偏向が克服され、党の隊伍が拡大強化された。党中央委員会第５回総会を通じて、党員の党性を鍛え、セクト主義に反対して党の統一団結を強化し、党の思想活動で主体性を確立するための闘いへとすべての党組織と党員を立ち上がらせることによって、党を組織的、思想的に強化するうえで新たな前進を遂げた。

朝鮮労働党は適時に党を強化するための措置を講じたので、あらゆる試練を乗り越え、祖国解放戦争の勝利をもたらすことができた。

20．朝鮮労働党は戦後、主体性を確立し、統一団結を強化するうえでどのような転換をもたらしたのか？

戦後、朝鮮労働党は主体性を確立し、統一団結を強化するうえで画期的な転換をもたらした。

金日成主席は1956年４月に第３回党大会を招集し、党建設分野にセクト主義に反対して党の統一団結を固守し、党の組織活動と思想活動を改善するための綱領的課題を提示し、1956年８月の党中央委員会総会では、党に挑戦した反党反革命分派分子を暴露、粉砕するための闘争を導いた。第３回党大会と1956年８月の党中央委員会総会を契機に、党活動では主体性がさらに確立し、党の統一団結が一段と強化された。

金日成主席は、社会主義の基礎建設の課題が完遂されて先進的な社会主義制度が全一的に確立し、自立的民族経済の土台が築かれることによって、党活動の社会経済的条件が根本的に変わり、反党分派分子とその思想的毒素に反対する粘り強い闘争を通じて、長きにわたって大きな弊害を及ぼしてきた分派を一掃し、朝鮮革命運動の統一を実現する歴史

的偉業が達成された時期に招集された1961年９月の第４回党大会で、党を組織的、思想的に引き続き強化し、その指導的役割をさらに強めるための綱領的課題を提示した。第４回党大会が党建設分野に示した課題を貫徹する闘争を通じて、党の統一団結がさらに強化され、党の指導的役割が一段と強まるとともに、党活動の方法と作風を改善し、大衆を教育し改造して党の周りに結集させる事業で画期的な前進が遂げられた。特に、1967年５月の党中央委員会第４期第15回総会を契機に、党の唯一思想体系を確立する事業に画期的な転換がもたらされた。

21. 朝鮮労働党の建設と活動で根本的な転換はどのようにもたらされたのか？

金日成主席の偉業を継承して達成してくれることを願うすべての党員と人民の切望により、金正日同志は1964年６月19日から朝鮮労働党中央委員会で活動を開始した。

金正日総書記の指導を受けはじめた時から、朝鮮労働党の建設と活動には根本的な転換がもたらさ

れ、政治、経済、文化、軍事など、すべての分野で党の指導的役割が一段と強まった。

金正日総書記は、朝鮮労働党と革命発展の将来を見通して全社会金日成主義化の戦略的方針を提示し、その前提条件として全党金日成主義化の方針を打ち出し、その実現のための闘いを精力的に導いた。そうして、党内に唯一思想、チュチェ思想がみなぎるようになり、それに基づく党隊伍の思想・意志の統一がさらに強化され、幹部陣容と党隊伍が一層強化され、チュチェの革命偉業をあくまで成し遂げるための根幹力量が整えられた。党内に金日成主席の教えが下部末端にまで速やかに浸透し、すべての党組織と党員が中央集権的規律に従って一体となって動き、党の路線と方針をあくまで擁護し貫徹する整然とした活動体系が確立した。

22. 朝鮮労働党は革命と建設をどのように導いてきたのか？

革命と建設の運命は全的に労働者階級の革命的党の指導的役割にかかっている。

朝鮮労働党は創立当初から70余星霜、政権党として

革命と建設を百戦百勝に導いてきた。革命闘争と建設事業の各段階、各時期に正しい路線と政策を打ち出し、その貫徹のための闘いを巧みに組織、指導した。

23. 朝鮮労働党は主権問題をどのように解決したのか？

金日成主席はつとに抗日革命闘争の時期に、朝鮮革命の任務と朝鮮の社会階級関係を科学的に分析し、それに基づいて労働者階級が指導する労農同盟に基づき、広範な人民大衆の統一戦線に依拠する人民政権を樹立するという主体的な政権建設路線を打ち出した。この路線は遊撃区で立派に具現され、その正当性が実証された。

解放後、朝鮮労働党は、金日成主席が打ち出した人民政権建設路線とそれを実現するための闘いで得た経験に基づき、内外の敵対勢力のあらゆる妨害策動を打ち砕き、人民政権を樹立することによって主権問題を立派に解決した。

人民政権が樹立されることによって、朝鮮人民は史上初めて主権を握った国家と社会の真の主人となり、革命と建設の強力な武器を手中に収めた。

朝鮮労働党は革命発展の要求に即して人民政権を強化し、その機能と役割を絶えず高めた。人民民主主義独裁政権として出現した人民政権は、党の指導の下に革命と建設の武器としての自らの使命を立派に遂行し、国家と社会の主人である人民大衆に自主的で、創造的な生活を十分に保障した。

24．朝鮮労働党は反帝反封建民主主義革命をどのように遂行したのか？

解放後、朝鮮労働党は反帝反封建民主主義革命を遂行することを当面の闘争綱領として打ち出し、その実現のための闘争を組織、指導した。

党は、朝鮮が解放された翌年の1946年に反帝反封建民主主義革命を遂行するうえで第一の問題として提起された土地改革という歴史的課題を1カ月足らずの短期間に徹底的に遂行し、次いで重要産業を国有化し、勤労者の民主主義的自由と権利を全面的に保障するための労働法令と男女平等権法令を発布するなど、諸般の民主的改革を実施することによって、共和国北半部で反帝反封建民主主義革命の課題を立派に遂行し、革命的民主基地

を打ち固めた。

25．朝鮮労働党は社会主義革命をどのように遂行したのか？

戦後、当時の情勢の要求に即して、朝鮮労働党は1955年４月のテーゼで社会主義革命を本格的に推し進めるという路線を打ち出し、その実現のための闘いに大衆を立ち上がらせた。

党は国の具体的実情に即して、農業の技術改造に先立って経営形態を社会主義的に改造するという独創的な方針を打ち出し、農業協同化運動を力強く展開した。農業協同化運動を指導するうえで、自発性の原則を堅持しながら農民に対する思想教育活動を強化するとともに、経験的段階を設定し、模範的実践を通じて農民に協同経営の優越性を示すようにした。また、協同経営の形態をさまざまに規定し、農民が自分の意思でそのうちの一つを選べるようにした。党の指導の下に、農業協同化運動は４～５年という短期間に成功裏に完了した。

党は、私営商工業を社会主義的に改造する事業も精力的に組織、指導した。国の資本主義的商工業の

特性を考慮に入れて、彼らを収奪せず、改造する方針をとり、資本主義的私営商工業者をさまざまな形態の協同経営に加入させる方法で私営商工業の社会主義的改造を成功裏に実現した。

都市と農村で古い生産関係の社会主義的改造が立派に実現されることによって、朝鮮では1958年に社会主義制度が確立された。

26．朝鮮労働党は３大革命をどのように遂行してきたのか？

朝鮮労働党は、社会主義革命が勝利し、社会主義制度が確立した後、思想、技術、文化の３大革命を社会主義社会で遂行すべき革命の基本内容、継続革命の課題として提示し、これを力強く展開した。３大革命を遂行するうえで、思想革命を確固として先行させる原則を堅持しながら技術革命と文化革命を強力に推し進めるようにした。

そうして、朝鮮人民は３大革命の旗を高く掲げ、社会主義の完全な勝利に向けて力強く前進することができるようになった。

27．朝鮮労働党は経済建設をどのように指導してきたのか？

朝鮮労働党は政権を執った当初から国の経済を速やかに発展させ、その威力を強めることに大きな力を入れた。党は、チュチェ思想を経済建設分野に具現して自立的民族経済建設路線を打ち出し、それを堅持し、その実現のための闘争をねばり強く導くことによって、戦争の傷跡をいやして短期間に自立的民族経済の土台を築き、立ち後れた農業国であったわが国を強力な社会主義工業国にした。

今日、朝鮮労働党は人民経済の主体化、近代化、科学化の路線を打ち出し、社会主義自立的民族経済の威力を一層強化し、新世紀の要求に即した社会主義経済強国を建設するために力強く闘っている。

28．朝鮮労働党は経済管理の問題をどのように解決してきたのか？

朝鮮労働党は社会主義的生産関係を確立した後、経済建設を推進するために経済管理を改善することに深い関心を払った。

党は、社会主義社会の特性と発展する現実の要求

に即してテアン(大安)の事業体系を創造することによって経済管理の問題を立派に解決した。工業管理体系とともに新しい農業指導体系と科学的な計画化体系を確立し、すべての経済指導機関がテアンの事業体系の要求通りに政治活動を綿密に行い、社会主義経済法則とさまざまの経済的テコを正しく利用して経済を科学的に、合理的に管理、運営するようにした。

今日、朝鮮労働党は新世紀の要求に即して社会主義的原則を厳守しながら最大限の実利を得る方向で経済管理の体系と方法を不断に改善している。

29. 朝鮮労働党は軍事事業をどのように進めてきたのか？

朝鮮労働党は、チュチェ思想を軍事分野に具現した自衛の革命的原則を堅持し、その実現のための闘いを精力的に組織、指導した。解放後、党を創立し人民政権を樹立する活動とともに、正規の革命武力を建設する活動を力強く推し進めた。こうして1948年２月、朝鮮人民革命軍は正規の革命武力である朝鮮人民軍に発展した。

朝鮮労働党は、朝鮮人民軍を政治的、軍事的にし

っかり準備させる一方、全人民を武装させることに深い関心を払った。全軍幹部化、全軍近代化、全人民武装化、全国土要塞化を基本内容とする自衛的軍事路線を打ち出し、それを貫徹することによって、人民軍を「一当百」の革命軍隊にし、全人民を武装させ、全国土を難攻不落の要塞にした。

朝鮮労働党は、国防における自衛の原則を貫徹するため、経済建設と国防建設を正しく結合する方針を示した。1960年代に米帝の侵略策動が露骨になり、戦争の危機に直面した時、経済建設と国防建設を並進させる方針を示し、国防建設に大きな力を入れた。2013年３月には米国の極端な核の威嚇に対処して経済建設と核武力建設を並進させるという路線を打ち出し、核武力の強化に大きな力を入れた。

30．朝鮮労働党は祖国統一のためにどのように闘ってきたのか？

朝鮮労働党は、国が分断された当初から祖国の自主的平和統一のための正しい路線と政策を打ち出し、その実現のために精力的に闘ってきた。祖国を統一するための闘いで朝鮮労働党が一貫して堅持

している基本方針は、国の統一をいかなる外部勢力の干渉も受けることなく、朝鮮人民自身によって自主的に、民主主義的原則に基づき、平和的方法によって実現することである。党は、祖国統一の基本方針に沿って、1960年代には主として自由な北南総選挙を実施するか、過渡的対策として北南連邦制を実施する方法で祖国を統一するために闘い、1970年代には金日成主席が示した祖国統一３大原則と祖国統一５大方針を実現するために闘い、1980年代からは金日成主席が朝鮮労働党第６回大会で示した高麗（コリョ）民主連邦共和国の創立方案を実現するために闘ってきた。祖国統一に有利な環境と条件を整えるため、南朝鮮に対する米帝の植民地支配に終止符を打ち、米軍を南朝鮮から撤退させ、南朝鮮でファッショ統治を一掃して社会の民主化を実現し、朝鮮半島の緊張状態を緩和して戦争の危険を取り除き、北南間に政治、軍事、外交、経済、文化の各分野にわたって多面的な合作と交流を実現するために終始一貫努力してきた。また、民族の内部問題である国の統一問題をあくまでも対話と協商を通じて平和的に解決することを主張し、そのためにねばり強く闘

ってきた。党は、祖国統一の主体を強化するために全民族の大団結を実現することに大きな力を注ぎ、金日成主席が示した**『祖国統一のための全民族大団結10大綱領』**を貫徹するために積極的に闘ってきた。

2000年代に入ってからは、金正日総書記が歴史的な6・15北南共同宣言で闡明した「わが民族同士」の理念に基づき、北南間の和解と団結、統一を実現するために積極的に闘ってきた。

祖国統一のための朝鮮労働党の路線と政策は、情勢発展の要求と朝鮮民族の意思を正しく反映した最も合理的かつ公明正大なものであるため、朝鮮人民は言うまでもなく、世界の人民の熱烈な支持と賛同を得ている。

31. 朝鮮労働党は対外活動をどのように展開してきたのか？

朝鮮労働党は自主、平和、親善の理念を具現した対外政策を立て、それに基づいて対外活動を展開し、国家機関と社会団体の対外活動を統一的に指導してきた。

党は、社会主義勢力と世界革命運動の団結と協力

を強めるためにねばり強く努力した。社会主義諸国との友好のきずなを強めることに常に第一の関心を払い、共産党、労働者党との関係で提起される問題を自主性に基づいて、相互理解と同志的協力の精神にのっとって解決してきた。また、非同盟運動の強化、発展と発展途上諸国との友好・協力関係を発展させるために極力努力した。朝鮮の自主権を尊重し、朝鮮に友好的に対する資本主義諸国とも善隣関係を結び、経済・文化交流を発展させた。

党は、正義の偉業のために闘う国の人民の闘争を積極的に支持声援することを崇高な国際主義的義務と見なし、被抑圧人民の植民地民族解放闘争を全力を尽くして支援し、民主主義的自由と階級的解放のための資本主義諸国の勤労者大衆の闘争を支持し、反帝・自主を目指す世界各国人民の闘争を積極的に支持声援してきた。

32. 朝鮮労働党の指導芸術で重要なのは何か？

朝鮮労働党は革命の初期から今日に至るまで、各段階の困難で複雑な革命闘争と建設事業を指導する過程に革命的で人民的な指導芸術を創造し、それ

を党活動に具現した。朝鮮労働党は、党建設と革命発展の各段階に党の指導芸術を打ち立てるための闘争を積極的に展開して、全党に革命的で人民的な指導芸術を確立した。こうして、党の面貌が一新され、すべての活動が力強く、活気に満ちて行われるようになり、党と大衆との連係が一層強まった。

朝鮮労働党の指導芸術は、チュチェ思想に基づき、革命的大衆路線を具現したチュチェの指導芸術である。党の指導芸術の重要な内容は、革命的な党活動体系と革命的で人民的な活動方法、活動作風である。

33. 朝鮮労働党の活動体系で重要なのは何か？

朝鮮労働党の活動体系で重要なのは、第一に、全党が党中央委員会の唯一的指導の下に一体となって動く革命的な規律と秩序であり、第二に、各級党委員会が当該単位の最高指導機関としてすべての活動を統一的に指導することであり、第三に、党中央委員会をはじめ各級党組織が下部の党組織を系統的に掌握、指導することである。

34．朝鮮労働党の活動方法で重要なのは何か？

　朝鮮労働党の伝統的な活動方法は、金日成主席が抗日革命闘争の時期に創造した活動方法である。党の活動方法で重要なのは、政治活動をすべての活動に確固として優先させること、上部が下部を助け、幹部が常に大衆の中に入り、大衆に依拠して革命課題を遂行すること、党活動を客観的現実と具体的条件に即して科学的に、創造的に行うこと、党の闘争目標を実現するための大衆運動を積極的に繰り広げることなどである。

35．朝鮮労働党の活動作風で重要なのは何か？

　朝鮮労働党の活動作風で重要なのは、継続革新、継続前進する闘争気風、自力更生、刻苦奮闘の革命的気風、覇気と情熱に満ちて働き生活する気風、原則的かつ公明正大な活動気風、人民が党の懐を実の母の懐と思うようにする人民的な気風と品性、党と革命のために限りなく献身し、仕事で率先垂範すること、党活動家と党員が謙虚で素朴な品性を身につけ、清廉潔白に生活することなどである。

36. 党創立事績館はどんな事績館なのか？

平壌市中心部の解放(ヘバン)山の麓にある党創立事績館は、解放直後、金日成主席が執務しながら朝鮮労働党を創立し、朝鮮革命を指導した所である。

党創立事績館は、解放直後、北朝鮮共産党中央組織委員会が庁舎として利用していた建物である。２階建ての事績館には、昔のままの金日成主席の執務室と応接室、会議室があり、党創立の事績を示す資料の陳列室がある。

主席は、木製の普通の机と椅子が置かれたこの質素な執務室と応接室、会議室で党創立の準備をし、党を創立した後は党を強化するためのさまざまな措置を講じた。主席はここで、歴史的な北朝鮮共産党中央組織委員会第２回、第３回拡大執行委員会をはじめ多くの会議を指導し、解放後、朝鮮人民が進むべき道を示すために各地で行う演説の原稿を書き、土地改革をはじめ諸般の民主改革を実施するための法令の草案を作成した。また、北朝鮮共産党中央組織委員会第８回拡大執行委員会を開いて、労働党の創立に関連して提起される原則的な問題を具体的に示し、労働党創立大会の報告をはじめ数多く

の著作を執筆した。主席は、党中央組織委員会協議会をはじめ重要な会議や行事を主宰し、1947年の新年の辞を行い、数多くの労働者や農民、各界の人士たちと会見した。

陳列室には、主席が党を創立し、大衆的政党として強化し発展させた歴史を示す資料が展示されている。

事績館の傍らには、祖国に凱旋した金日成主席が最初に起居した家屋がそのまま保存されている。主席はこの家で同志たちと寝食をともにしながら、党を創立し、新しい祖国を建設するために心血を注ぎ、全国各地から訪ねてくる数多くの人々や各階層の人士たちと語り合った。

事績館の近くの丘の上には、党創立偉業に積み上げた金日成主席の業績を末長く伝えるために建てられた党創立事績碑がある。

37. 北朝鮮共産党中央組織委員会創立大会はどんな大会なのか？

1945年10月、平壌で行われた北朝鮮共産党中央組織委員会創立大会は、チュチェ型の革命的党の創立を宣布した歴史的な党創立大会である。

大会で、金日成主席は『わが国におけるマルクス・レーニン主義党の建設と党の当面の任務について』と題する報告を行った。

主席は報告で党の組織路線と政治路線を示した。

主席は、われわれが創立する共産党は朝鮮労働者階級の真の前衛部隊となり、朝鮮革命を確固と勝利に導く威力ある政治的参謀部とならなければならないとし、党の組織的根幹を固め、労働者、農民の中から先進分子を積極的に党隊伍に受け入れて党を無産階級を基盤とする強固な大衆的政党につくり上げ、チュチェ思想に基づく全党の思想・意志及び行動の統一を確実に保障し、民主主義中央集権制の規律を厳守するなど、党建設の原則を打ち出した。

また、民主主義人民共和国を創建し、国を富強な民主主義自主独立国家に発展させなければならないとし、そのための当面の４大課題を示した。

代表たちは、金日成主席が示した党の組織路線と政治路線をこぞって支持し、北朝鮮共産党中央組織委員会の創立に賛同の意を表した。大会では、党中央指導機関として北朝鮮共産党中央組織委員会を結成し、党の創立を世界に宣布した。

38．北朝鮮共産党中央組織委員会第１回拡大執行委員会はどんな会議なのか？

1945年10月、平壌で行われた北朝鮮共産党中央組織委員会第１回拡大執行委員会は、金日成主席が作成した**『土地問題に関する決定』**を討議、採択した会議である。

主席は**『土地問題に関する決定』**で、日本帝国主義者と親日的反動地主の土地を一切没収して農民に分与し、各自の労働力によって耕作させる、と規定した。次いで、日本帝国主義者と親日的反動地主の所有であった山林、河川、沼沢、水利施設は一切没収して人民の所有とし、その管理権は地方政権機関に委任する、と規定した。また、日本帝国主義者と親日的反動地主から没収した土地で生産される農作物は小作人が所有し、地方政権機関に収穫の３割程度を納付し、「東洋拓殖株式会社」の管轄下にあった土地に対する小作料は地方人民委員会と農民委員会が合議して３割またはそれ以下にすることができる、と規定した。

主席は、親日的な反逆地主は、「韓日併合」（1910年８月）以前に日本帝国主義に助力した売国奴とそ

の相続者、「韓日併合」後、日本帝国主義の強盗的機関に積極的に協力した者、日本帝国主義の侵略戦争に直接、間接に協力した者、と規定した。土地は原則的に雇農と貧農に分与し、土地の分与にあたり、民族的及び階級的運動家、民族解放運動家、抗日パルチザン参加者とその遺族、日本帝国主義の侵略戦争による犠牲者の遺族が農業を営もうとする場合は、彼らに優先権があり、現在土地を小作している者にも当該の土地の分与を受ける優先権がある、と規定した。また、親日的反動地主の土地を調査する際は、その所在地と面積だけでなく、地主の過去と現在の一切の行動について実証的に調査しなければならない、と規定した。

会議の参加者たちは『土地問題に関する決定』を全的に支持した。会議は、反帝反封建民主主義革命の段階における農民問題、農業問題を正しく解決するうえで重要な意義を有した。

39. 北朝鮮共産党中央組織委員会第2回拡大執行委員会はどんな会議なのか？

1945年11月、平壌で行われた北朝鮮共産党中央組

織委員会第2回拡大執行委員会は、党の政治路線を歪曲しようとする分派分子、地方割拠主義分子の策動を粉砕し、政権問題解決のための原則的立場と具体的課題について討議した会議である。

党内に潜入した分派分子、地方割拠主義分子が党の政治路線を故意に歪曲し、その実行を妨げていた時期に招集されたこの会議では、政権問題、民族統一戦線問題、大衆団体建設問題など、党の政治路線を貫徹するうえで提起される問題をめぐって、分派分子に反対する強い思想闘争が行われた。

会議で、金日成主席は**『真の人民の政府を樹立するために』**と題する演説を行った。主席は演説で、一部の人が持ち出した「人民共和国」は少数の特権階級のための反人民的なブルジョア政権であり、これを主張するのは結局、政権に対する党の指導を放棄し、反動勢力に政権を譲り渡そうとする反人民的行為であるとし、朝鮮に直ちにプロレタリア独裁政権を樹立し、社会主義革命を遂行しなければならないという主張は、朝鮮の社会発展の客観的要求と人民大衆のレベルを考慮しない極左的な行動であり、党と大衆を切り離すきわめて危険な行動であると

述べた。また、真の人民の政権である民主主義人民共和国を樹立するために全力を尽くすべきであるとし、民主主義人民共和国を樹立するためには大衆を結集したうえで、党の指導の下に民主的諸政党と大衆団体を網羅した民族統一戦線協議会を開き、そこで中央政権機関を組織しなければならないと述べた。

そして、党の方針は、強固な民主主義民族統一戦線を結成して人民政権の大衆的基盤を築くというものであるとし、そのためには各階層の大衆を結集する大衆団体を一日も早く組織して民主主義民族統一戦線を結成し、この活動で党の役割を強めなければならないと述べた。

主席は、新しい祖国建設の有利な条件が備わっている北朝鮮で統一的な民主主義政権を成功裏に建設するための準備活動を急ぐべきであるとし、その具体的方途を示した。

会議は、政権建設に現れた左右の日和見主義者の策動を粉砕し、党の政治路線を擁護、貫徹するうえで重要な意義を有した。

40．北朝鮮共産党中央組織委員会第３回拡大執行委員会はどんな会議なのか？

1945年12月、平壌で行われた北朝鮮共産党中央組織委員会第３回拡大執行委員会は、党の組織路線を貫徹するための組織的対策を討議した会議である。

党の組織路線の貫徹を妨げる分派分子、地方割拠主義分子の策動を粉砕し、党活動に根本的な転換をもたらすためにこの会議を招集した金日成主席は、**『北朝鮮共産党各級党組織の活動について』**と題する報告を行い、**『党の強化のために』**と題する結語を述べた。

主席は報告で、党活動の成果と重大な欠陥を指摘し、党の組織路線貫徹のための具体的な課題を示した。まず、党員の構成で労働者出身の比重が低い原因を分析し、先進的な勤労者が入党できるように党勢拡大の方向を正して党の階級構成を改善しなければならないと述べた。そして、全力を尽くして党の規律を強め、党の統一を保つために闘う問題、幹部が大衆の中に入って彼らの声に耳を傾け、大衆を教えるだけでなく、大衆から学ぶ革命的な活動方法と活動作風を身につけることによって党が大衆との結

びつきを強める問題、職業同盟がその基本任務を立派に果たすよう党の指導を強化する問題、幹部養成と党勢配置の問題、党員証の交付と党員統計の問題、統一戦線事業を改善する問題などについて述べた。

主席は結語で、党を組織的に強化し、党の思想・意志の統一と党の規律を強め、党の幹部を学校だけでなく実際の活動を通じて養成し鍛え、各道党委員会が党中央組織委員会に定期的に活動状況を報告する規律を強化しなければならないとし、すべての地方で速やかに共青を民青に改組すべきであると重ねて強調した。

会議では、党中央の決定に背き、党の規律を破った分派分子らに厳しい党の処罰を適用した。

こうして、党活動全般に対する金日成主席の唯一的指導が確立され、唯一思想に基づく党の統一と団結が全面的に強化され、党建設と党活動に新たな転換がもたらされた。

41．北朝鮮共産党中央組織委員会第５回拡大執行委員会はどんな会議なのか？

1946年３月、平壌で行われた北朝鮮共産党中央組

織委員会第５回拡大執行委員会は、土地改革の基本方針とそれを実現するための対策を討議した歴史的な会議である。

解放後、民主改革を実施するにあたって土地問題を解決することを第一の課題として打ち出し、その準備活動を精力的に指導してきた金日成主席は、この会議を招集し、土地改革において提起される問題を全面的に明示した。主席は、「**土地は耕作する農民に！**」というスローガンの下に農民を土地の主人にすることを土地改革の基本原則として打ち出し、無償没収、無償分与の原則に基づいて土地改革を行い、没収した土地を国家所有にせず、農民の個人所有にすべきであると述べた。また、小作に出している土地は面積にかかわりなくすべて没収し、雇農と土地を持たないか少ししか持たない農民に家族数と働き手の数によって土地を分与し、農民に分与された土地は売買できず、抵当に入れたり小作に出したりすることもできないようにすべきであると述べた。そして、地主を一掃する闘いでは雇農と貧農にしっかり依拠し、中農と同盟し、富農を孤立させる階級政策を実施すべきであるとし、土地改革遂行

の方途まで具体的に示した。

会議では、土地改革の即時実現に関する決定が採択された。

42．北朝鮮共産党中央組織委員会第７回拡大執行委員会はどんな会議なのか？

1946年６月、平壌で行われた北朝鮮共産党中央組織委員会第７回拡大執行委員会は、労働法令の実施、党組織の課題、春期播種の総括と秋の収穫準備について討議した会議である。

会議で金日成主席は、６月20日の北朝鮮臨時人民委員会第８回会議で発表した労働法令草案が朝鮮人民の生活改善に持つ大きな意義について述べ、労働法令を実施するうえで提起される党組織の課題とその遂行方途を示した。

会議では、この労働法令草案が、労働者、事務員に民主主義的解放をもたらし、彼らの労働条件と物質生活の改善を保障し、彼らに幸福な新しい生活を自由に築く道を切り開く、真に民主主義的な法令であることが強調された。また、朝鮮の民主国家建設に最も必要な法令、民主建設の必須条件となり、労

働者階級の歴史的課題を解決するうえで重要な意義を持つことが強調された。労働法令の実施と関連して、まず各道・市党及び郡党では党熱誠者会議を、党細胞では総会を開き、そこで労働法令実施のための具体的な対策を講じなければならないと指摘された。また、党組織は労働法令実施のために職盟(朝鮮職業総同盟)の活動を助け、幹部を動員して各企業で会議を招集し、各地方都市で大衆示威を組織しなければならないと指摘された。会議ではまた、労働者、事務員に労働法令を正しく認識させるため各企業、事務機関で労働法令の内容を勤務時間外に研究、習得するようにさせ、この活動を成功裏に保障するために中央委員を派遣しなければならないと指摘された。

会議は、勤労者の民主主義的自由と権利を全面的に保障するための変革をもたらすうえで重要な意義を有した。

43．北朝鮮共産党中央組織委員会第８回拡大執行委員会はどんな会議なのか？

1946年７月、平壌で行われた北朝鮮共産党中央組

織委員会第８回拡大執行委員会は、北朝鮮共産党と朝鮮新民党の合同を実現するための対策を討議した会議である。

会議では、合同の手順、合同される党の綱領、規約の草案、党の中核育成問題をはじめ、合同と関連して提起される原則的問題が討議された。共産党と新民党の合同問題と創立される党の綱領と規約について述べた金日成主席は、代表たちから質問を受け、それに明確に答えた。主席は、なぜ共産党は新民党とだけ合同するのか、青友党や民主党とも合同できるではないかという質問に対して、青友党や民主党と合同しようという見解は党の階級的性格を明確に認識していないことによるものであると指摘した。また、党の名称をなぜ労働党とするのかという質問に、労働と言えば普通工場や鉱山で働く労働者のことを考えるが、それは一面的な見方である、労働者は言うまでもなく農民も労働し、事務員も精神労働をするとし、両党を合同して創立する党は、ともに労働に参加する労働者、農民、知識人の先進分子の組織であるので、その名称を労働党にすることにしたのだと答えた。主席は、入党の資格と

年齢はどのように規定するのかという質問に、会議の参加者の意見を聞いた後、入党の資格については、労働者、農民、知識人の中で国の民主主義的発展のために先駆的な役割を果たせる人をみな入党させるべきである、入党できる年齢は国の情勢からしても大衆団体を強化する必要性からしても20歳にするのがよいと答えた。主席は、このほかにもいろいろな質問に答え、労働党における共産主義者の中核的役割は、先頭に立ち、犠牲的精神を発揮して活動し、革命の発展段階の要求に即して大衆を教育し奮い立たせることに現れなければならないと述べた。

分派分子が共産党と新民党が合同するのは共産党を「プチブル化」「右傾化」することではないのかと主張した時、主席は、そうした見解は人を見下す小ブルジョア英雄主義と排他主義によるものであると厳しく指摘し、共産党が労働党になるからといって党の指導思想も変わらなければならないと考えるのは間違っていると述べた。

会議では、主席が作成した合同計画書が発表され、参加者たちの全的な賛同を得た。会議は、党を勤労

人民の統一的な大衆的党として強化、発展させるうえで重要な意義を有した。

44．北朝鮮労働党創立大会はどんな大会なのか？

1946年８月、平壌で行われた北朝鮮労働党創立大会は、金日成主席が打ち出した大衆的党建設路線に従って共産党を勤労者大衆の統一的党である労働党として強化、発展させた大会である。

大会で、金日成主席は**『勤労者大衆の統一的党を創立するために』**と題する報告を行った。主席は報告で、創立される労働党の性格と基本任務を明示し、党の当面の任務は、祖国の民主主義的独立を妨げるあらゆる親日的・封建的反動勢力を一掃し、北朝鮮臨時人民委員会を一層強化し、朝鮮全域で政権を人民委員会に委譲するために闘い、北朝鮮で民主的改革の成果をさらに打ち固め、それを朝鮮全域に実現するために闘うことであると述べた。こうした闘争任務を成功裏に遂行するためには、何よりも党を強力な戦闘部隊にすることが重要であるとし、幹部を点検して掌握し、育成、登用することに最善

を尽くすとともに、党の綱領、政策と決定を人民大衆の間に深く浸透させ、人民自身がその実現のために自発的に立ち上がるようにしなければならないと述べた。

大会で、金日成主席は**『労働党の当面の任務について』**と題する結語を述べた。主席は結語で、労働党の当面の中心的課題は一日も早く朝鮮の民主主義的完全自主独立を達成することであるとし、こうした歴史的課題を正しく遂行するために党を拡大、強化しなければならないと述べた。

大会では、北朝鮮労働党が創立され、党の綱領と規約が採択された。また、党中央委員会機関紙『正(チョン)路(ロ)』が『労働新聞』に改称され、党の政治理論雑誌『勤労者』の発刊が決定された。

大会では、金日成主席を首班とする党中央委員会が選挙された。

また、全朝鮮同胞に送る宣言が採択された。北朝鮮労働党創立大会は、党を広範な大衆の間により深く根をおろした党として強化、発展させるうえで大きな意義を有した。

45. 北朝鮮労働党中央委員会1946年９月第２回会議はどんな会議なのか？

1946年９月、平壌で行われた北朝鮮労働党中央委員会第２回会議は、同年11月３日に実施する初の民主選挙と党の課題について討議した会議である。

会議で、金日成主席は『**人民委員会委員選挙について**』と題する報告を行った。主席は報告で、朝鮮の歴史上初の民主選挙が持つ意義と朝鮮の選挙制度の進歩的内容を明らかにした。そして、選挙活動と党員の任務について言及し、第一に、党員自身が選挙に対して正しい認識を持って選挙の宣伝活動を積極的に行い、第二に、選挙活動を通じて北朝鮮臨時人民委員会に対する深い認識を持つよう大衆を教育し、第三に、真の人民の働き手が人民委員会の委員に選出されるよう最善の努力を払い、第四に、選挙活動を通じて民主主義民族統一戦線をさらに強化し、友党に対する労働党の影響力を強めると同時に広範な人民大衆の間で労働党の権威を高めるために極力努力し、第五に、親日派、民族反逆者を正しく規定し、第六に、選挙活動を契機に大衆に対する民主主義教育を広く行うべきであるとし、第七

に、選挙を妨害しようとする反動分子の陰謀に対して警戒心を高め、敵に侵入するすきを与えてはならないと述べた。

会議では、選挙活動を成功裏に行うための決定が採択された。会議は、歴史的な初の民主選挙の勝利をもたらし、労働党の戦闘力をさらに高めるうえで大きな意義を有した。

46. 北朝鮮労働党中央委員会1947年３月第６回会議はどんな会議なのか？

1947年３月、平壌で行われた北朝鮮労働党中央委員会第６回会議は、党活動と大衆指導方法を改善し、1947年度の人民経済計画を成功裏に遂行するための対策を討議した会議である。

会議では、一部党組織の活動上の誤りと欠陥を克服する問題、人民委員会委員選挙の総括と人民政権を強化するための党組織の任務、1947年度の人民経済計画を成功裏に遂行するための党組織の課題などが討議された。

会議で、金日成主席は『**一部党組織の活動上の誤りと欠陥を克服するために**』と題する報告を行った。

主席は、この１年間、民主建設のための闘いで党が果たした決定的役割について指摘した後、民主主義民族統一戦線に関する党の政策実行、活動作風と活動方法、党勢拡大をはじめ、一部党組織の活動上の誤りと欠陥、その主な原因を分析し、党活動を抜本的に改善するための課題を示した。

会議で、主席は**『大衆指導方法を改善し、今年度の人民経済計画を成功裏に遂行するために』**と題する結語を述べた。主席は、大衆指導方法を改善するための課題を示し、大衆との活動で誤りを犯した党員に対する教育に力を入れ、社会団体との活動を正しく行い、人民委員会の活動に対する指導を改善し、友党との活動に力を入れ、人民に税金外の負担をかけないようにするとともに、党員が新しい祖国建設のための闘いに対して正しい認識を持つようにしなければならないと述べた。また、1947年度の人民経済計画を成功裏に遂行するためには、党組織が人民経済計画を成功裏に遂行するための突撃運動を正しく組織し、全党員がこの運動に積極的に参加するようにし、社会団体で活動している党員を通じてすべての社会団体が立ち上がるようにし、人民の愛

国的熱意を呼び起こし、彼らの間で浪費行為をなくし、労働規律を厳守するとともに、労働生産性向上のために極力努力しなければならないと述べた。

会議は、当時の環境に合わせて党活動を改善し、経済建設に対する党の指導的役割を強めて初の人民経済計画を成功裏に遂行するうえで大きな意義を有した。

47．北朝鮮労働党中央委員会1947年10月第10回会議はどんな会議なのか？

1947年10月、平壌で行われた北朝鮮労働党中央委員会第10回会議は、社会団体に対する党の指導を強化する問題について討議した会議である。

会議で、金日成主席は『**社会団体の指導を強化することについて**』と題する結語を述べた。主席は、社会団体の活動を強化することの重要性と社会団体の活動が相応の水準で行われていない原因を解明し、社会団体の活動に根本的な転換をもたらすための課題を示した。それは、第一に、社会団体の基層組織である初級団体の活動を強化すること、第二に、社会団体の特性に応じて活動の方向を示し、日

常的に指導と支援を行うこと、第三に、社会団体が同盟員の思想教育に力を入れるようにすること、第四に、社会団体の活動家の活動作風を抜本的に改善することに党としての関心を払い、党活動家が独りよがりな活動作風を一掃し、人民的な活動作風を身につけることであると述べた。

会議は、社会団体の活動に根本的な転換をもたらすことによって、広範な大衆を労働党の周りに固く結集させ、新しい社会の建設を力強く推し進めるうえで大きな意義を有した。

48．北朝鮮労働党中央委員会1948年２月第12回会議はどんな会議なのか？

1948年２月、平壌で行われた北朝鮮労働党中央委員会第12回会議は、1948年度の人民経済計画を遂行するための各級党組織の任務について討議した会議である。

会議で、金日成主席は**『今年度の人民経済計画を遂行するための党組織の任務』**と題する報告を行った。主席は報告で、党組織と党員が1947年度の人民経済計画を成功裏に遂行するための活動で得た成

果と経験、現れた欠陥を総括し、1948年度の人民経済計画を遂行するための党組織の重要な任務を提示した。そして、労働生産性を向上させるためには、技術を絶えず発達させ、労働者の技能水準を高め、労働の組織を合理的に行い、労働規律を強化することに深い関心を払わなければならないと述べた。また、すべての国営工業企業は独立採算制を正しく実施しなければならないとし、計画的な管理・運営体系を確立して資金を計画的に支出し、生産を計画的に行うことによって資材と資金を節約し、支出を抑えながら良質の製品をより多く生産しなければならないと述べた。地下資源の埋蔵量を調査、確定し、それに基づいて採鉱と採炭を計画的に、将来を見通して行わなければならないと述べた。また、農業を速やかに発展させなければならないとし、土地を遊ばせることなく土地の利用度を高め、灌漑工事に力を入れて水害と冷害を防ぎ、適地適作の原則に基づいて作物を配置し、化学肥料を作物の特性と各地方の土壌に応じて適時に科学的に施すとともに、堆肥をより多く施さなければならないと述べた。主席はこのほかにも、牧畜業、山林経営、水産業、貨物輸送、商

品流通、対外貿易、教育事業などを発展させる課題を示した。

会議では、朝鮮臨時憲法の草案について討議し、決定を採択した。

会議は、経済建設における党の指導的役割をさらに強め、全党と全人民を人民経済計画を遂行するための闘いに立ち上がらせるうえで重要な意義を有した。

49. 北朝鮮労働党第２回大会はどんな大会なのか？

1948年３月、平壌で行われた北朝鮮労働党第２回大会は、党の質的強化と祖国の自主的統一のための方針、その実現方途を示した大会である。

大会で、金日成主席は北朝鮮労働党中央委員会の活動報告を行い、**『すべての力を民主基地の強化と祖国の統一独立のために』**と題する結語を述べた。

主席は党中央委員会の活動報告で、南朝鮮で強行しようとする米帝の単独選挙と傀儡「政府」でっち上げ策動を断固排撃し、自主的で民主主義的な原則に基づいて祖国を平和的に統一するという方針を

提示した。労働党は一般、平等、直接の選挙原則と秘密投票の方法によって全朝鮮にわたる最高立法機関の選挙を主張するとし、祖国統一を実現するためには、南北朝鮮のすべての民主的政党、社会団体代表の連席会議を開いて、統一国家を樹立するための具体的な計画と方策を立てなければならないと述べた。また、北朝鮮の革命的民主基地をさらに強固にし、経済建設に対する各級党組織の指導的役割を強めなければならないとし、民族経済の復興発展のための人民政権機関の課題を具体的に示した。そして、党建設の課題を示し、党の基層組織である細胞を強化し、特に中核を育成し、その役割を強めるとともに、党の政策を貫徹するための下級党組織の活動に対する指導・点検を着実に行い、幹部の活動作風を改善し、社会団体に対する指導を強化し、幹部事業を改善しなければならないと述べた。党員と人民を党の路線と政策で武装させ、階級意識を高めるための思想教育と思想闘争を強化しなければならないと指摘した。

主席は結語で、反分派闘争を力強く展開するよう強調し、分派分子の罪業と手口、その思想的根源を

暴露し、すべての党組織と党員が些細な分派的行為とも妥協することなく闘って分派の残滓を一掃し、党の統一と団結を強化しなければならないと述べた。

大会では、金日成主席を首班とする党中央委員会を選挙した。大会は、党の統一と団結をさらに強め、党を質的に強化するうえで新たな転機を開いた。また、朝鮮人民を社会主義への過渡期の初期の課題の遂行と祖国統一のための全民族的闘争に立ち上がらせた。

50. 北朝鮮労働党中央委員会1948年７月第２回会議はどんな会議なのか？

1948年７月、平壌で行われた北朝鮮労働党中央委員会第２回会議は、朝鮮民主主義人民共和国憲法の実施と最高人民会議総選挙に関連して提起される党組織の課題について討議した会議である。

金日成主席は会議での結語で、最高人民会議代議員選挙に際して党を組織的、思想的に強化し、選挙を高い政治的及び勤労の成果をもって迎えることと、党内で批判を強化し、党の路線を固守することについて述べた。主席は、最高人民会議総選挙によって樹立される統一中央政府は、祖国の統一と民主

独立のための朝鮮人民の明確な闘争の旗印、信念と希望の標的、勝利の基礎となるだろうと述べた。そして、統一中央政府樹立の歴史的偉業の達成を目前にして、いつにもまして党の思想的統一と組織的団結が求められているとし、党を強化するための闘いに全党の党組織と党員が立ち上がるよう呼びかけた。また、当面の選挙の勝利を目指す闘いを1948年度の人民経済計画を遂行する闘いと結びつけて進め、この闘いで勝利への確信とより高い警戒心を持たなければならないと述べた。

会議では、朝鮮民主主義人民共和国憲法の実施と最高人民会議選挙に関連する党組織の任務に関する決定が採択された。

51. 北朝鮮労働党中央委員会1948年９月第３回会議はどんな会議なのか？

1948年９月、平壌で行われた北朝鮮労働党中央委員会第３回会議は、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議選挙の総括と党組織の当面の課題、晩期作物現物税徴収と1949年度の農産物増産のための党組織の課題について討議した会議である。

会議ではまず、朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議代議員選挙を成功裏に行い、中央政府を樹立した活動状況を総括した。最高人民会議代議員選挙に、南朝鮮地域では全有権者の77.52％が南朝鮮人民代表者大会代表選挙に参加して人民代表を選出し、北朝鮮地域では全有権者の99.97％が選挙に参加して98.49％が民戦（民主主義民族統一戦線）が推薦した代議員候補者に賛成投票した。最高人民会議選挙の結果は、自主独立国家の建設を目指す朝鮮人民の闘いにおいて新たな発展段階を開いた。会議では、朝鮮民主主義人民共和国政府が樹立された現段階において党員と各党組織が共和国政府の権威を高め、共和国の政権と憲法を朝鮮全域に実現し、共和国政府の政綱を実現するために全党を動員し、すべての党組織が民主建設の成果を打ち固め、民主主義民族統一戦線を強化し、各党組織が選挙活動で現れた指導方法上の欠陥を是正するなど、当面の課題を示した。

会議では次に、晩期作物の現物税徴収と1949年度の農産物増産のための対策を討議し、各党組織に提起される課題を示した。

会議は、金日成主席が示した共和国政府の政綱を

実現し、1949年度の農業生産を増やすうえで重要な意義を有した。

52．北朝鮮労働党中央委員会1949年２月第５回会議はどんな会議なのか？

1949年２月、平壌で行われた北朝鮮労働党中央委員会第５回会議は、第２回党大会の決定を実行するための各級党組織の活動を総括し、２カ年人民経済計画の遂行において党組織の役割を強める問題について討議した会議である。

会議で、金日成主席は『党組織の活動を改善することについて』と題する結語を述べた。主席は結語で、第２回党大会以後、９カ月間の党活動において達成した成果を分析し、党組織の活動を改善するための課題を示した。まず、党の組織活動を強化することについて言及し、党勢拡大の活動をあくまで党的・階級的原則に基づいて行い、すべての党員が党生活に積極的に参加するようにし、党内に鉄の規律を確立し、各級党指導機関を打ち固め、特に党細胞を強化し、党組織に対する指導・点検を強化し、党活動家の指導作風を改善しなければならないと述

べた。次に、党の思想活動を強化することについて言及し、党員と勤労者を党の路線と政策で武装させることに力を入れるとともに、階級的教育を強化し、思想教育活動の方法を絶えず改善し、宣伝・鼓舞手段と宣伝・鼓舞体系を十分に活用しなければならないと述べた。また、経済建設に対する党の指導を強化することについて言及し、ここで重要なのは勤労者大衆に党の経済政策と提起されている経済課題の重要性について解説して彼らの政治的熱意を呼び起こすことであり、すべての生産部門に党の力量を適切に配置し、党員の先駆者的役割を強め、優秀な党員を思い切って行政・経済幹部に任用し、彼らが経済組織活動と生産指揮を立派に行うよう助け、党活動家が経済知識と企業管理方法を身につけることであると述べた。そして、２カ年人民経済計画の中心的課題を示し、各級党組織は２カ年人民経済計画を成功裏に遂行するための対策を講じ、すべての力量を動員して２カ年人民経済計画を遂行、超過遂行しなければならないと述べた。最後に、統一戦線事業を強化し、社会団体に対する指導を強化することについて強調した。

会議は、党組織の戦闘力を一段と高め、党活動全般を改善する重要な契機となった。

53．北朝鮮労働党中央委員会1949年６月第６回会議はどんな会議なのか？

1949年６月、平壌で行われた北朝鮮労働党中央委員会第６回会議は祖国統一民主主義戦線の結成について討議した会議である。

会議で、金日成主席は**『祖国統一民主主義戦線の結成について』**と題する報告を行った。

主席は報告で、南朝鮮に対する米帝の植民地従属化政策と李承晩（リ スンマン）傀儡一味の反民族的売国行為によって生じた重大な政治情勢は、米帝の侵略策動に反対し米帝を追い出すとともに、李承晩一味を打倒し、南半部人民を救うべき歴史的課題を提起しているとし、この課題を成功裏に遂行するためにはすべての愛国勢力を結集し、全民族が一つに固く団結しなければならないと述べた。そして、祖国を愛し、統一を願う愛国的人民、特に北南朝鮮の進歩的な政党、社会団体を一つの民主主義的勢力として総結集するためには祖国統一民主主義戦線を結成しなけれ

ばならないと指摘した。祖国統一民主主義戦線は国土の保全と祖国の統一のために闘う愛国的な民主政党、社会団体が自発性の原則に基づいて参加する組織になるべきであるとし、祖国統一民主主義戦線に参加する各政党、社会団体は独自に活動しながら、共通の目的を実現するために固く団結し、互いに緊密に協力すべきであると述べた。そして、祖国統一民主主義戦線は、祖国の統一と完全な独立を達成し、日帝と封建主義の残滓を一掃し、国の民主的発展を保障し、民族経済と民族文化を復興、発展させ、人民生活を向上させることを闘争目標として掲げ、その実現のために積極的に闘わなければならないと指摘した。また、米軍を南朝鮮から撤退させ、米帝の侵略の道具である「国連朝鮮委員団」を追い出すための闘いに全民族を立ち上がらせるとともに、李承晩傀儡一味をはじめ民族反逆者を打倒するための闘いを果敢に展開しなければならないと述べた。また、米帝と李承晩傀儡一味によって逮捕された愛国的民主人士を釈放させ、南朝鮮における民主的政党、社会団体の自由な活動を保障するために闘わなければならないと指摘した。また、共和国北半部で

民主改革の成果を固め、南朝鮮で民主改革を実施するために闘わなければならないと述べた。

　主席は次に、労働党は、祖国統一民主主義戦線の強化、発展のために主動的かつ積極的な役割を果たすべきであるとし、祖国統一民主主義戦線内で独自性を堅持しながら、他の政党、社会団体と共通の目的を実現するために固く団結し、緊密に協力しなければならないと述べた。当面は、祖国統一民主主義戦線結成準備委員会で活動している党員の役割を強めて、祖国統一民主主義戦線の綱領と宣言文が朝鮮人民の利益にかなうように作成され、結成大会の準備が順調に進むようにしなければならないと述べた。そして、各級党組織は、全党員と人民に祖国統一民主主義戦線結成の重要性と意義を明確に認識させ、彼らがこれを成功させるために極力努力するようにしなければならないと指摘した。

　会議は、金日成主席の統一戦線路線に基づき祖国統一民主主義戦線を成功裏に結成し、祖国統一民主主義戦線事業に対する労働党の指導的役割を強めるうえで大きな意義を有した。

54．朝鮮労働党中央委員会第２回総会はどんな会議なのか？

1949年12月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第２回総会は、金日成主席が国際革命勢力との連帯を強め、共和国北半部の革命的民主基地をさらに強固に築くうえで提起される綱領的な課題を示した会議である。

会議で述べた結語で、主席は、米帝の侵略策動を粉砕し、戦争を防止して平和を擁護するうえで共産主義者と革命的人民が堅持すべき原則的な立場を明らかにした。主席は、帝国主義者が第３次世界大戦を引き起こすならば、それは世界帝国主義の墓場になるだろうとし、勝利の確信を持って帝国主義者、戦争放火者に反対する闘争をより強力に展開すべきであると述べた。次いで、共和国北半部の革命的民主基地を強化するうえで提起される綱領的課題を示した。まず、反動分子の妨害策動を粉砕し、勤労者大衆の統一団結をさらに強めるべきであると指摘した。そして、産業省と各級党組織が産業の発展に深い関心を払い、工場、企業に対する指導を強化しなければならないと述べた。また、商業流通事

業を改善し、農村で雇用労働力を使えないようにし、人民軍を強化するうえで提起される課題を示した。

総会は、新たな戦争をしかけようとする米帝の戦争政策を粉砕し、世界の平和を守り、共和国北半部に築かれた革命的民主基地を一層強化するうえで重要な契機となった。

55. 朝鮮労働党中央委員会第３回総会はどんな会議なのか？

1950年12月、朝鮮の北部慈江道江界市（当時は慈江道長江郡香河里）で行われた朝鮮労働党中央委員会第３回総会は、党の統一団結を強め、党、国家、軍隊の革命的規律を強化し、前線と後方を強固にするための課題について討議した会議である。

総会は、米帝の新たな軍事的冒険によって祖国解放戦争（朝鮮戦争）が長期化する軍事・政治情勢下で、前線と後方をさらに強固にし、特に、戦略的な一時的後退の時期に生じた混乱状態を早急に収拾し、すべての部門で革命的規律を確立し、敵に決定的な攻撃を加える準備に万全を期することが求められていた時期に招集された。

総会で、金日成主席は『**現情勢と当面の任務**』と題する報告を行い、結語を述べた。

主席は報告と結語で、６カ月間の戦争過程を分析、総括し、戦争の最終的勝利を早めるための当面の課題を示した。まず、反攻撃戦で収めた勝利を打ち固め、敗走する敵に対する攻勢をさらに強化し、軍事分野で主体性を確立しなければならないと述べた。また、他国のものを機械的に取り入れる教条主義、事大主義的傾向を一掃し、朝鮮の自然地理的特性と具体的実情に合わせて多様な戦術を適用して戦闘を巧みに行い、山岳戦と夜戦を巧みに展開し、歩兵と砲兵の協同行動を綿密に組織すること、そして予備部隊の訓練においても既存の戦闘規定にだけ依拠するのでなく、戦争の過程で得た生きた経験に依拠することについて強調した。

主席は、党の規律を強化し、党の思想・意志の統一と団結を強めることを重要な課題として示した。そして、党の規律を弱めるあらゆる傾向と容赦なく闘い、難関にぶつかるほど革命的規律をさらに強化し、党の統一団結を固守しなければならないと述べた。

主席は、敵が一時的に占領していた地域で党、政権機関、社会団体を早急に整備し、破壊された人民経済を復旧し、人民生活を安定させ、前線の需要を満たすことに全力を傾けなければならないと述べた。また、敵が一時的に占領していた地域にもたらした政治的・思想的弊害を一掃し、反動団体に加担した者を処理するうえで堅持すべき原則を示した。そして、反動団体に加担した者を処理するにあたっては、敵の脅迫に屈して反動団体に加わったとしても、悪質な行為をしなかった者は寛大に許して再教育し、悪質分子は必ず法的手続きを踏んで処理し、人民が直接審判するようにすべきであると述べた。

主席は、自力更生の革命精神を強く発揮することについて特に強調した。

総会は、軍事分野で主体性を確立し、すべての分野で革命的規律を強化する問題を前面に打ち出すことによって、米帝侵略者の軍事的企図を粉砕し、戦争の勝利を早め、全党の思想・意志及び行動の統一を強めるうえで重要な契機となった。

56．朝鮮労働党中央委員会第４回総会はどんな会議なのか？

1951年11月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４回総会は、祖国解放戦争の時期、党の組織活動に現れた極左的な偏向を克服し、党の隊伍を拡大強化し、党と大衆との連係を強める問題について討議した会議である。

総会は、米帝侵略者が朝鮮人民軍の積極的な軍事行動により「夏期及び秋期攻勢」で惨敗を喫したにもかかわらず、停戦会談の幕裏で新たな軍事的冒険を強行しており、戦略的な一時的後退の時期に敵がもたらした弊害を一掃し、党組織を復旧、整備する過程で党内に極左的な偏向が顕著に現れていた時期に招集された。

総会で、金日成主席は**『党組織の組織活動におけるいくつかの欠陥について』**と題する報告を行い、**『党の組織活動の改善について』**と題する結語を述べた。主席は報告と結語で、党勢拡大における極左関門主義的傾向を批判し、前線と後方で勇敢に戦っている労働者、農民、軍人、知識人の中から先進分子を広く党に受け入れるべきだと述べた。勤労農民

を多く党に受け入れると労働党が農民党になるという見解を批判し、農民出身が増えるからといって党の性格が変わるわけではないと強調した。主席は、懲罰主義的傾向を是正し、党内に自覚的な規律を確立し、幹部事業を改善し、活動作風を改めることについて指摘した。また、戦時に即して統一戦線事業を強化することについて指摘した。

総会は、党の隊伍を組織的に瓦解させようとした極左関門主義と清算主義的傾向を克服し、党建設と党活動において主体性を確立し、党を組織的、思想的に強化し、大衆指導活動に画期的な転換をもたらし、祖国解放戦争の最終的勝利を早めるうえで重要な契機となった。

57. 朝鮮労働党中央委員会第５回総会はどんな会議なのか？

1952年12月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第５回総会は、党を組織的、思想的に強化し、祖国解放戦争の最終的勝利を早めるための課題について討議した会議である。

総会は、米帝侵略者が朝鮮人民軍によって大きな

打撃を受けたにもかかわらず、莫大な戦闘技術機材と兵力を投入して最後のあがきのような大規模の「新攻勢」を準備しており、党内で党員の党性を鍛えることが切実な問題として提起されていただけでなく、朴憲永（パクホンヨン）スパイ一味が党と政府を転覆する陰謀を企てていた非常に緊張した情勢の下で招集された。

　総会で、金日成主席は**『党の組織的・思想的強化はわれわれの勝利の基礎』**と題する報告を行い、**『現軍事情勢と党、政権機関及び人民軍を強化するための問題』**と題する結語を述べた。主席は報告と結語で、これまでの党活動における成果と欠陥を総括し、党を組織的、思想的に強化し、政権機関と人民軍を強化するための課題を示した。

　まず、党員の党性を鍛え、党隊伍の統一団結を強める課題を提示した。一部の党員の間に見られる党性に欠けた行為を指摘し、あらゆる「自由主義」的傾向に反対し、党性を高めるための闘いを力強く展開しなければならないと述べた。そして、党員の党性を鍛えるための闘いを、セクト主義に反対し、党の統一団結を固守するための闘いと密接に結びつ

けて進めるべきだと強調した。

次に、党の思想活動を改善、強化するための課題を示した。党の思想活動の基本は党員と勤労者を労働者階級の革命思想で武装させることであるとし、党の思想活動で教条主義と形式主義、民族虚無主義を克服し、国の具体的現実に即して朝鮮革命の実践的問題を解決する方向で党の思想教育活動を着実に行い、民族文化遺産を正しく継承し、発展させなければならないと述べた。

総会は、党員の党性を鍛え、セクト主義とあらゆる「自由主義」的傾向に反対し、党の思想活動を国の具体的現実に即して行うための闘いに全党を立ち上がらせることによって、党内に潜入していた反党反革命スパイ一味を摘発、粉砕し、党を組織的、思想的にさらに強化し、祖国解放戦争の最終的勝利を早めるうえで画期的な契機となった。

58. 朝鮮労働党中央委員会第６回総会はどんな会議なのか？

1953年８月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第６回総会は、戦後の経済建設の基本路線と人民

経済復興発展のための課題について討議した会議である。

総会は、朝鮮労働党と朝鮮人民に、米帝の新たな戦争挑発策動に対処して動員態勢を堅持し、戦争によって破壊された人民経済を復興し、零落した人民生活を安定、向上させるべき切実な課題が提起されていた時期に招集された。

総会で、金日成主席は『すべてを戦後の人民経済復興発展のために』と題する報告を行った。

主席は報告で、まず停戦に対する党の立場を明らかにし、停戦は完全な平和でないからといって平和な建設ができないかのように考える傾向と、停戦になったからといって完全な平和がもたらされたものと考えて安逸に流れ、自己満足に陥る傾向をともに批判した。そして、全力を傾けて戦後の人民経済復興建設を推進して北半部の革命基地を政治的、経済的、軍事的にさらに強化し、祖国の統一を達成するために引き続き粘り強く闘わなければならないと述べた。

主席は戦後の人民経済復興発展について言及し、重工業の優先的な復興発展を保障しながら、同時に

軽工業と農業を発展させる方向へ進むという経済建設の基本路線を提示した。そして、工業復興発展の基本方向をはじめ人民経済各部門の復興発展方向を示すとともに、それを成功裏に保障するための具体的な課題と方途を示した。

総会は、経済建設の基本路線と人民経済復興発展の方向と方途、具体的な課題を明示することによって、すべての党員と勤労者が明確な展望と確固たる信念を持って戦後の人民経済復興発展のための闘いに立ち上がるようにする画期的な契機となった。

59. 朝鮮労働党中央委員会第７回総会はどんな会議なのか？

1953年12月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第７回総会は、戦後の人民経済復興建設の初期、統一戦線活動を改善するための課題について討議した会議である。

総会は、戦後の人民経済復興建設に各階層の広範な大衆を立ち上がらせることが切実な問題として提起されていた時期に招集された。

総会で、金日成主席は**『統一戦線活動の改善につ**

いて』と題する結語を述べた。主席は統一戦線活動を改善する必要性について言及し、統一戦線活動を改善するための課題を示した。友党の組織及びその党員との統一戦線を強化するために下部統一を強化することに大きな力を入れるとともに、上層部との統一にも深い関心を払う必要があるとし、企業家、商人との統一戦線に力を入れる問題、キリスト教信者との活動を正しく行う問題、政権機関で働く友党の社会活動家や無所属民主人士との活動を強化する問題などについて具体的に述べた。

総会は、統一戦線活動を改善し、各級党組織を固める画期的な措置を講じることによって、各階層の広範な大衆を戦後の人民経済復興建設に立ち上がらせ、党組織の戦闘力を一段と強化するうえで大きな意義を有した。

60．朝鮮労働党中央委員会1954年３月総会はどんな会議なのか？

朝鮮労働党中央委員会1954年３月総会は、戦後の人民経済復興建設を成功裏に遂行するために産業・運輸部門の活動を改善する課題について討議し

た会議である。

総会は、戦後の人民経済復興発展のための準備段階の事業が成功裏に終了し、３カ年人民経済計画の実行に着手することに関連し、人民経済の主導的部門である産業・運輸部門の幹部の指導水準を高めることがいつにもまして重要な問題として提起されていた時期に招集された。

総会で、金日成主席は**『産業・運輸部門の欠陥とその是正策について』**と題する報告を行い、結語を述べた。主席は報告と結語で、人民経済各部門に対する指導に見られる欠陥を分析、批判し、その是正策について述べた。幹部の間に残っている官僚主義的活動作風を一掃し、実質的かつ分析的な指導作風を確立すること、幹部の責任制を強化し、実行状況に対する点検を行い、活動で秩序と規律を確立すること、省、管理局の幹部と支配人の役割を強めることについて強調した。そして、幹部の選抜・配置を正しく行うこと、労働行政を強化すること、企業の管理・運営を着実に行うことについても強調した。また、計画の作成とその実行において守るべき原則的問題をはじめ、産業・運輸部門の課題を具体的に

示した。産業・運輸部門に対する党の指導を強化するうえで提起される重要な問題についても言及した。

総会は、新たな環境に即して経済幹部の指導水準を高め、広範な大衆が創意を発揮できるようにすることによって、戦後の人民経済復興建設において最も重要な部門である産業・運輸部門の活動全般に大きな転換をもたらす画期的な契機となった。

61. 朝鮮労働党中央委員会1954年11月総会はどんな会議なのか？

朝鮮労働党中央委員会1954年11月総会は、農業協同化運動の経験的段階における成果を総括し、農業協同化運動を大衆運動として展開するための課題について討議した会議である。

総会は、農業協同化運動の経験的段階で大きな成果を収めることによって、広範な農民を自発性の原則に基づいて農業協同化運動に参加させることができるようになった時期に招集された。

総会で、金日成主席は**『今後の農業発展を目指すわが党の政策について』**と題する結語を述べた。

主席は、農業に対する指導を改善し、戦後、急速

な発展を遂げる人民経済全般に農業を追いつかせ、人民生活の向上と工業原料の供給のために農業生産を増やすべきであると指摘した。

　また、国の経済構造を科学的に分析し、農業協同化運動を大衆運動として発展させるべきであると述べた。主席は、農業協同組合の三つの形態について分析し、農民の自覚の程度と意識水準に合わせてそのうちの一つを選ぶようにさせるべきであるとして、自発性の原則をはじめ党が農業協同化において堅持すべき原則を示した。

　総会は、戦後急速に発展する工業に農業を追いつかせ、特に農業協同化運動を大衆的段階に発展させるうえで画期的な契機となった。

62．朝鮮労働党中央委員会1955年４月総会はどんな会議なのか？

　朝鮮労働党中央委員会1955年４月総会は、金日成主席が戦後の内外の情勢と国の社会経済及び階級関係を全面的に分析し、それに基づいて朝鮮革命の性格と任務、朝鮮革命で堅持すべき戦略戦術的方針と方途を示した歴史的な会議である。

総会は、朝鮮革命全般の性格と課題を明示し、共和国北半部で遂行すべき革命の総体的任務を正しく規定することが切実な要求となっていた時期に招集された。

総会で、金日成主席は朝鮮革命の性格と任務に関するテーゼ**『すべての力を祖国の統一独立と共和国北半部における社会主義建設のために』**を発表した。主席はテーゼで、米帝の南朝鮮占領により朝鮮革命が複雑さと困難さを帯びるようになった特殊な現状と共和国北半部の革命情勢、それに国の社会関係を深く分析し、それに基づいて朝鮮革命の性格と任務、それを遂行するための党の戦略戦術的方針を明示した。また、共和国北半部の経済形態と階級関係を深く分析し、社会主義の基礎建設を行うという独創的な方針と、それを実現するための具体的な方途を示した。

総会で、主席は**『党員に対する階級的教育を強化することについて』『官僚主義をなくすために』**と題する報告を行い、**『社会主義革命の現階段における党及び国家活動のいくつかの問題について』**と題する結語を述べた。主席は報告と結語で、党内で階

級的教育を強化する必要性とその基本方向及びその対策、官僚主義の本質と表現形態、官僚主義の根源とそれをなくすための実際的対策、セクト主義の要素をなくし党の統一と団結を強めるための課題、当面の人民経済計画を成功裏に遂行するうえで提起される一連の問題などについて強調した。

総会は、党活動において教条主義と形式主義を克服し、主体性を確立し、党員と勤労者の階級意識を高め、幹部の活動方法と活動作風を改善し、社会主義革命と社会主義建設に一大転換をもたらすうえで重要な契機となった。

63．朝鮮労働党第３回大会はどんな大会なのか？

1956年４月、平壌で行われた朝鮮労働党第３回大会は、金日成主席が総括期間、党が歩んできた闘争と勝利の道程を総括し、社会主義基礎建設を完成するための綱領的課題を示した歴史的な大会である。

大会は、共和国北半部で生産関係の社会主義的改造を全面的に完成し、南半部で祖国の自主的平和統一を実現するための闘いを力強く展開し、米帝を頭

目とする帝国主義者の新たな戦争挑発策動を粉砕し、国際共産主義運動内に現れた修正主義を克服し、世界革命を力強く前進させることが切実に求められていた時期に開かれた。

大会で、金日成主席は党中央委員会の活動報告を行い、結語を述べた。主席は報告と結語で、国際・国内情勢を深く分析し、総括期間、党が得た成果と経験を全面的に総括するとともに、党と人民を新たな勝利へと奮い立たせるための綱領的課題を示した。そして、人民経済発展５カ年計画(1957～1961)の目標を打ち出した。また、生産関係の社会主義的改造を完成し、社会主義的工業化の基礎を築き、人民の食・衣・住の問題を基本的に解決することを５カ年計画の基本課題として提示し、人民経済各部門別の発展方向と課題を示した。主席はまた、祖国統一民主主義戦線と人民政権を強化して国家社会制度を絶えず強化、発展させるという課題を示した。そして、南朝鮮の情勢を全面的に分析し、自主的祖国統一の方針を再度闡明するとともに、それを実現するための具体的な方案を示した。主席は党をさらに強化、発展させるための課題も示した。次いで、

党の統一団結を固守するための闘争を強化することについて強調した。党内で朴憲永（パクホンヨン）、李承燁（リスンヨプ）一味と反党反革命分派分子は暴露、一掃されたが、その思想的影響はまだ完全に一掃されておらず、M・L派、火曜派のなごりも完全に取り除かれていない状況の下で、反分派闘争を強化し、党の統一と団結をさらに強めなければならないと述べた。党の組織指導活動分野で党員の党生活を強め、その党性を鍛え、幹部と党員の間に革命的大衆観点を確立し、党の活動方法と作風を改善することを重要な課題として提示し、幹部事業と勤労者団体の活動についても具体的に述べた。党の思想活動分野で教条主義と形式主義をなくし、主体性を確立することについて強調し、その具体的な課題を示した。

大会では、金日成主席が示した自主的祖国統一の方針とそれを実現するための具体的な方案を反映した宣言「祖国の平和的統一のために」が採択された。大会では、金日成主席を再び党中央委員会委員長に推戴した。

歴史的な朝鮮労働党第３回大会は、革命と建設をより力強く前進させ、党活動において主体性を確立し、

党の国際的地位を高めるうえで大きな意義を有した。

64．朝鮮労働党中央委員会1956年8月総会はどんな会議なのか？

朝鮮労働党中央委員会1956年８月総会は、長年、朝鮮革命の発展に大きな弊害をもたらした反党反革命分派分子を暴露、粉砕し、党の統一と団結を強めるための決定的な措置を講じた会議である。

当時、内外の情勢は複雑をきわめ、朝鮮労働党と朝鮮人民の前途には多くの困難と試練が横たわっていた。国際共産主義運動内に台頭した修正主義者の策動はエスカレートし、南朝鮮を占領した米帝とその手先の反動的攻勢はいつにもまして強まっていた。こうした機に乗じて、党内では、崔昌益（チェチャンイク）を頭目とする反党反革命分派分子が外部勢力を後ろ盾にして自分たちの分派的目的を実現しようとしていた。

総会では、１．兄弟諸国を歴訪した政府代表団の活動総括と党の当面のいくつかの課題について、２．人民保健医療事業を改善することについて討議した。金日成主席が第一議題について報告を行った。

主席は報告で、兄弟諸国を歴訪した政府代表団の活動を総括し、経済建設と党建設分野に提起される当面の課題を提示した。

会議の過程で、崔昌益を頭目とする反党反革命分派分子は不意に党に挑戦してきた。総会は、彼らの挑戦に即座に打撃を加えた。

主席は総会で、今後、分派活動を無条件禁止し、それがどんな口実の下に行われようとも、またいかに些細なことであっても断固粉砕するとともに、まだ残っている分派の残党を一掃するための闘争を引き続き強力に繰り広げなければならないと強調した。

総会は、長い来歴を持つ分派の残滓を一掃し、金日成主席を中心とする全党の統一団結を強め、党活動において主体性を一層しっかり確立するうえで大きな歴史的意義を有した。

65. 朝鮮労働党中央委員会1956年12月総会はどんな会議なのか？

朝鮮労働党中央委員会1956年12月総会は、金日成主席が社会主義建設で革命的大高揚を起こすとい

う綱領的課題を提示し、社会主義建設の大高揚とチョンリマ(千里馬)運動の端を開いた会議である。

総会は内外の情勢が非常に緊張していた時期に招集された。当時、米帝とその手先は「北進」騒動を狂乱的に繰り広げていたし、修正主義者の策動もエスカレートしていた。膨大な5カ年計画遂行のために必要な資材や資金も不足していたし、人民生活もまだ困難な状態にあった。一部の幹部の間には、難関を前にしておじけて動揺し、革命と建設を速いテンポで推し進めるのをためらう傾向が現れていた。

総会で、主席は**『社会主義建設で革命的大高揚を起こすために』**と題する結語を述べた。主席は結語で、あらゆる困難を乗り越えて社会主義経済建設で新たな高揚を起こすという方針を示した。そして、1957年度の工業総生産額を1956年度の予定実績より21％も高めることを予定しているとし、他人より何倍、何十倍も速く駆けて行かなければならないと強調した。次いで、1957年度の人民経済計画を遂行するための方途を示し、すべての部門、すべての単位で増産と節約のスローガンを高く掲げ、革新運動

の火の手を一層高め、新年には年頭から毎日、毎月、毎四半期ごとに必ず計画を超過遂行しなければならないと述べた。

総会は、内外の敵の策動を粉砕し、人民大衆の高まった革命的気勢を社会主義建設に向けることによって、人民経済のすべての部門、すべての単位で世人を驚嘆させる奇跡が生まれる社会主義建設の大高揚とチョンリマ運動を起こすうえで重要な歴史的契機となった。

66．朝鮮労働党中央委員会1957年12月拡大総会はどんな会議なのか？

朝鮮労働党中央委員会1957年12月拡大総会は、帝国主義と修正主義、教条主義に反対し、社会主義諸国の統一と国際共産主義運動の団結を強めるための原則的問題について討議した会議である。

拡大総会は、世界的に米帝を首魁とする帝国主義者の侵略策動が悪辣に強行され、修正主義者の反革命的策動がエスカレートすることによって、世界革命運動と国際共産主義運動内に複雑な問題が提起されていた時期に招集された。拡大総会では、ロシ

ア10月社会主義革命40周年慶祝行事とモスクワで行われた各国の共産党及び労働者党の代表者会議に参加した朝鮮労働党と共和国政府代表団の活動について討議した。

拡大総会で、金日成主席は**『社会主義陣営の統一と国際共産主義運動の新たな段階』**と題する報告を行った。主席は報告で、国際情勢を全面的に分析したうえで、国際共産主義運動と世界革命が解決を求める原則的問題に明確な回答を示し、反帝反米闘争と国際共産主義運動及び社会主義諸国の統一団結を強めるための朝鮮労働党の立場を明らかにした。次いで、国内情勢を分析し、祖国の自主的平和統一を早めるための具体的な方案を示した。祖国の平和統一を実現するためには、すべての愛国勢力を米帝とその手先に反対する統一戦線に連合することが何よりも重要であるとし、民族の独立と平和的統一のために尽くす人であれば、その過去を問わず手を携えていくであろうと述べた。そして、共和国北半部で社会主義建設を促進して革命的民主基地を強化することについて強調し、社会主義諸国の統一と国際共産主義運動の団結を強めるための原則的問題

について言及した。

拡大総会は、米帝をはじめ帝国主義者に大きな打撃を与え、社会主義諸国の統一と国際共産主義運動の団結を強めるのに大いに寄与した。

67．朝鮮労働党第１回代表者会はどんな会議なのか？

1958年３月、平壌で開かれた朝鮮労働党代表者会は、党の統一と団結を一層強める問題と５カ年計画の具体的な課題について討議した会議である。

当時、党は、1957年度の人民経済計画を遂行することによって盛り上がった人民大衆の革命的気勢をさらに高め、長い来歴を持つ分派の残滓を一掃するための全党的闘争を総括し、党の統一と団結を一層強化する必要があった。

党代表者会で、金日成主席は『**第１次５カ年計画を成功裏に遂行するために**』と題する結語を述べた。主席は、社会主義的工業化の土台を築き、人民の衣食住の問題を基本的に解決するという５カ年計画の中心課題を提示し、５カ年計画期間に重工業を優先的に発展させ、同時に軽工業と農業を発展させる

という党の経済建設の基本路線を引き続き堅持し、蓄積と消費の均衡を正しく保ち、経済建設と人民生活の問題を合理的に解決することについて強調した。そして、長い来歴を持つ分派の残滓を一掃するための党内闘争を総括し、党の統一と団結を一層強め、党活動をさらに発展させる課題を示した。

党代表者会は、朝鮮労働党と朝鮮革命の発展にとって大きな歴史的意義を有した。まず、長い来歴を持つ分派分子とその残存勢力を徹底的に粉砕し、金日成主席を中心とする全党の統一と団結を決定的に強めることによって、党と革命の発展に新たな転機をもたらした。また、当面の５カ年計画の課題とその実行対策を明示することによって、社会主義建設をさらに促進できるようにした。

68．朝鮮労働党中央委員会1958年9月総会はどんな会議なのか？

朝鮮労働党中央委員会1958年９月総会は、社会主義建設の大高揚をさらに高めることについて討議した会議である。

総会は、都市と農村で生産関係の社会主義的改造

が完成した状況下で、勝利した社会主義制度の優越性を余すところなく発揮し、社会主義建設のすべての部門で革命的大高揚をさらに高めることが求められていた時期に開かれた。

総会で、金日成主席は水利化を国の農村技術革命の当面の中心課題として提示し、「**すべての力を100万ヘクタールの灌漑面積拡張に!**」というスローガンを打ち出すとともに、人民あげての運動によって畑地灌漑システムを確立し、水田灌漑面積を増やして数年のうちに水利化を基本的に完成するという課題を示した。また、金属工業と機械製作工業を急速に発展させる課題を示した。「**鉄と機械は工業の王者!**」というスローガンを打ち出し、金属工業と機械製作工業を速やかに発展させるための闘いを力強く展開するよう、すべての党員と勤労者に呼びかけた。

総会で主席は、保守主義と消極性に反対し、社会主義建設の大高揚をさらに高めることを訴える党中央委員会の手紙を全党員に送る措置を講じた。

総会は、社会主義建設のすべての部門で保守主義、消極性に反対して革命的大高揚をさらに高め、チョ

ンリマ運動を一段と深化発展させ、金属工業と機械製作工業を発展させ、水利化を推進し、工業と農業部門で技術革命を力強く推し進めるうえで画期的な契機となった。

69．朝鮮労働党中央委員会1960年８月総会はどんな会議なのか？

朝鮮労働党中央委員会1960年８月総会は、全面的技術革命の遂行に全党と全人民を立ち上がらせた会議である。

総会は、社会主義的工業化の雄大な綱領である第１次７カ年計画遂行への移行の準備が着々と進み、全面的技術革命が人民経済の発展にとって機の熟した要求となっていた時期に招集された。

総会で、金日成主席は『技術革命を成功裏に遂行するために』と題する結語を述べた。主席は、技術革命は、抑圧と搾取から解放された人民を骨の折れる労働から解放し、仕事は楽にしながらもより多くの富を生産できるようにし、人民の生活を一層豊かで文化的なものにする重要な革命であるとし、技術革命を成功裏に遂行するために大衆の知恵と創意

を発揮させるべきであると述べた。また、重工業、特に機械製作工業をはじめ人民経済のすべての部門で技術革新を起こすための具体的な方途を示し、機械製作工業部門で鋳物と部品の生産を専門化し、プレス法を広く取り入れる問題、技術革新にとって緊急な問題である設計事業を改善すること、生産において石炭のガス化と化学化の問題を解決すること、数年のうちに電子工業を創設し発展させて技術革新の新たな局面を開くことなどについて言及した。そして、農業と地方工業を機械化する問題、建設・運輸部門と水産部門の技術装備を強化する問題、中央工業でも機械化を完成し、漸次オートメ化へ移行する問題について述べた。次いで、全面的技術革新と関連して技術者養成事業を強化する方針を提示し、働きながら学ぶ技術大学を広く設置、運営し、通信、定時制教育などを発展させるとともに、すべての勤労者が一つ以上の技術を身につけるための全党的、全人民的運動を力強く展開し、技術者に対する思想教育活動を強化しなければならないと述べた。

　総会は、人民経済の発展、特に社会主義的工業化の要求に即して技術革命を新たな高い段階へと発

展させるうえで画期的な契機となった。

70．朝鮮労働党第4回大会はどんな大会なのか？

1961年９月、平壌で行われた朝鮮労働党第４回大会は、金日成主席が総括期間、社会主義革命と社会主義建設で収めた成果を総括し、社会主義の高峰をきわめるための第１次７カ年計画の雄大な綱領を提示した歴史的な大会である。

大会で、金日成主席は党中央委員会の活動報告を行い、結語を述べた。主席は、朝鮮に先進的な社会主義制度が確立し、朝鮮が自立的民族経済の土台を持つ社会主義工業農業国家に発展した成果を総括し、社会主義の全面的建設のための第１次７カ年計画の雄大な綱領を示した。７カ年計画の基本課題は、勝利した社会主義制度に依拠して全面的な技術改造と文化革命を遂行し、人民生活を画期的に向上させることであるとし、７カ年計画の部門別課題について言及した。また、南朝鮮革命の性格と基本的要求を明らかにし、労働者、農民の独自の革命的党を組織しなければならないと指摘し、自主的統一方針を再度闡明した。主席は総括期間、党建設分野で

得た成果と経験を総括し、党を組織的、思想的に引き続き強化し、その指導的役割を強めるための課題を示した。党を強化するためには、幹部陣容を固め、その指導水準を決定的に向上させるとともに、初級党組織を引き続き強化しなければならず、各級党委員会を固め、その機能と役割をさらに強めなければならないと強調した。党を強化し、その指導的役割を強めるためには、党の唯一的指導の下に国家機関と勤労者団体がその機能を十分果たすようにしなければならず、各級党委員会は革命的大衆路線を貫徹し、革命的な活動方法と活動作風を引き続き堅持するとともに、大衆を教育、改造して党の周りに団結させなければならないと述べた。党を強化するうえで最も重要な問題は全党の思想・意志の統一と団結をさらに強めることであるとし、党の統一と団結を強めるためには、すべての党員を党の思想で武装させ、修正主義、教条主義、セクト主義、地方主義、家族主義などあらゆる日和見主義に反対して闘わなければならないと述べた。主席は国際情勢を全面的に分析したうえで、反帝反米闘争を強化し、党の自主的対外政策を貫徹するための課題を示した。

大会では、全党員の一致した意思を反映して金日成主席を再び党中央委員会委員長に推戴した。

朝鮮労働党第４回大会は、社会主義の基礎建設を完成した勝利者の大会、金日成主席の周りに固く結束した団結の大会であり、党と革命発展の新たな里程標を示した歴史的な大会であった。

71．朝鮮労働党中央委員会第４期第３回拡大総会はどんな会議なのか？

1962年３月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第３回拡大総会は、金日成主席が革命発展の新たな要求に即して党員の党生活を強化し、党活動においてチョンサンリ(青山里)精神、チョンサンリ方法を貫徹するという綱領的な課題を示した会議である。

拡大総会で、金日成主席は**『党の組織活動と思想活動の改善について』**と題する結語を述べた。結語で主席は党活動の本質と内容を再度明示し、党活動においてチョンサンリ精神、チョンサンリ方法を具現するための具体的な方途を示した。

金日成主席は党生活について次のように述べている。

「党生活とは党員が党から与えられた任務を遂

行する活動を言うのであります。それは党員の政治生活であり革命活動であります」

主席は、党の規約上の義務を果たすことの意義を強調し、党員の党生活を強化するうえで提起される具体的な課題を示した。また、農村で階級闘争を強化して一握りの敵対分子を徹底的に孤立させ、革命勢力を強化すること、修正主義に反対する闘争を強化することについて述べた。

拡大総会は、新たな環境の要求に即して党員の党生活を強化し、党活動においてチョンサンリ精神、チョンサンリ方法を確実に具現し、党の戦闘力を高め、全党に党の唯一思想体系を確立するうえで重要な契機となった。

*チョンサンリ精神、チョンサンリ方法；チュチェ思想と革命的大衆路線を具現した朝鮮労働党の大衆指導に関する思想と方法。

72. 朝鮮労働党中央委員会第４期第５回総会はどんな会議なのか？

1962年12月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第５回総会は、金日成主席が当時の情勢を

科学的に分析し、経済建設と国防建設を並進させるという新たな戦略的方針を示した会議である。

総会は米帝の新たな侵略策動により内外の情勢が急変した時期に招集された。米帝は1962年10月、キューバ共和国にカリブ海の危機をもたらし、日本軍国主義を再武装させ、彼らを南朝鮮軍事ファシスト一味と結託させようと策動した。当時の情勢は、激化する米帝の新たな戦争挑発策動に対処して国防力を強化するための決定的な対策を講じることを切実に求めた。

総会では１．新たな情勢に関連して国防力をさらに強化することについて、２．1962年度人民経済計画実行状況の総括と1963年度人民経済発展計画について討議した。

総会で金日成主席は『六つの目標を達成する闘いで収めた成果を固め発展させよう』と題する結語を述べた。主席は結語で、1962年度人民経済計画実行状況を具体的に総括し、1963年度人民経済計画の基本課題とその遂行方途を示した。1963年度人民経済計画を成功裏に遂行するため、テアン(大安)の事業体系の確立とチョンサンリ精神、チョンサンリ方法

の貫徹、各級党委員会の集団指導の強化、計画化事業の強化、連携生産の徹底した組織と実行、設備利用度の向上、技術革新運動の強力な推進、労働行政の改善、基本建設での革新、給養活動の改善、幹部の政治学習と技術・実務学習の強化などを内容とする10大課題を示した。

主席は総会で新たな情勢を全面的に分析し、それに基づいて経済建設と国防建設を並進させるという新たな戦略的方針を示した。

総会は、急変した情勢に対処して適時に経済建設と国防建設を並進させるという新たな方針と人民経済計画実行のための具体的な課題を示すことによって、党員と勤労者に米帝の侵略策動に対処して万全の準備をさせるとともに、国の経済力と国防力をともに打ち固める画期的な契機となった。

73．朝鮮労働党中央委員会第４期第６回総会はどんな会議なのか？

1963年５月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第６回総会は、金日成主席が工場党委員会の活動を強化し、チョンリマ（千里馬）作業班運動

をさらに発展させるという課題を示した会議である。
総会は、人民経済のすべての部門で党活動を抜本的に改善し、チョンリマ作業班運動をさらに発展させて社会主義建設の大高揚を維持することが重要な問題として提起されていた時期に招集された。
総会で、金日成主席は**『工場党委員会の活動を強化し、チョンリマ作業班運動をさらに発展させるために』**と題する結語を述べた。主席は結語で、まず工場党委員会の活動を強化することについて述べた。工場党委員会の活動で最も重要なのは集団指導を正しく行うことであるとし、そのためには党委員会を固め、委員たちの水準を高め、彼らに任務を適切に分担しなければならないと述べた。また、各級党組織がチョンリマ作業班運動を掌握し、責任を持って指導すべきであるとし、この運動をさらに発展させるうえで提起される具体的な課題を示した。そして、当面の重要な課題は第１次７カ年計画を立派に遂行することであるとし、人民経済の各部門で提起される緊切な問題について述べた。
総会は、発展する現実の要求に即して人民経済各部門の党活動を抜本的に改善し、チョンリマ作業班

運動をさらに発展させ、社会主義建設の大高揚を維持するうえで重要な契機となった。

74. 朝鮮労働党中央委員会第４期第８回総会はどんな会議なのか？

1964年２月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第８回総会は、金日成主席が社会主義農村建設のための党の綱領となる『わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ』を発表し、祖国統一を早めるという綱領的課題を示した会議である。

金日成主席は『わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ』を発表し、『祖国統一偉業の実現を目指し全力をあげて革命力量を強化しよう』と題する結語を述べた。

主席は『わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ』で、社会主義下における農村問題の本質と内容、その最終的解決のための基本原則と方途を全面的に解明した。社会主義下における農民問題と農業問題を立派に解決するために主席が示した基本原則は、第一に、農村で技術革命と文化革命、思想革命を徹底的に遂行し、第二に、農民に対する労

働者階級の指導、農業に対する工業の援助、農村に対する都市の支援を全面的に強化し、第三に、農業に対する指導と管理を絶えず工業の先進的な企業管理の水準に接近させ、全人民的所有と協同的所有との連係を強め、協同的所有を絶えず全人民的所有に接近させることである。

主席は総会で述べた結語**『祖国統一偉業の実現を目指し全力をあげて革命力量を強化しよう』**で、共和国北半部の革命力量と南朝鮮の革命力量、国際革命力量を強化するという課題を提示し、祖国統一の具体的な方途を示した。

総会は、**『わが国における社会主義農村問題に関するテーゼ』**を社会主義農村建設のための党の綱領として採択することによって人民に社会主義農村建設の明るい展望を開くとともに、党員と勤労者が祖国統一の大業を主動的に迎えるようにするうえで大きな歴史的意義を有した。

75. 朝鮮労働党中央委員会第４期第９回総会はどんな会議なのか？

1964年６月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員

会第４期第９回総会は、金日成主席が社会主義社会において勤労者団体の役割を強めるための課題を示した会議である。

総会では１．朝鮮農業勤労者同盟を組織することについて、２．職業同盟の活動を改善、強化することについて討議した。

総会で、金日成主席は**『勤労者団体の活動を改善、強化するために』**と題する結語を述べた。主席は結語で、農業勤労者同盟を組織する必要性と意義について述べ、農業勤労者同盟の基本任務を示した。農業勤労者同盟の基本任務は、農村で思想革命、技術革命、文化革命を成功裏に進めるため、農民大衆を教育し、彼らの革命的熱意を積極的に引き出すことであるとし、農業勤労者同盟はすべての農民大衆を包括する勤労者団体として、また農村活動を保障する党の外郭団体として、社会主義農村問題に関するテーゼが打ち出した課題を実現するために闘わなければならないと述べた。農業勤労者同盟を組織するうえで提起される原則的な問題について具体的に述べた主席は、職業同盟の活動についても綱領的な教えを述べた。労働者階級が政権を掌握している

社会主義社会での職業同盟の基本任務は、すべての労働者、技術者、事務員が社会主義建設と社会主義経理運営に主人らしく参加するよう彼らを党の思想、共産主義思想で武装させることであるとし、職業同盟の重要な課題を全面的に示した。

総会は、農業勤労者同盟を組織し、職業同盟の活動を強化するという革命的措置を講ずることによって、新たな環境に即して勤労者団体の活動を改善、強化し、すべての勤労者を党の周りにより固く結集させて主体的革命力量を一層強化するうえで大きな意義を有した。

76. 朝鮮労働党中央委員会第４期第10回総会はどんな会議なのか？

1964年12月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第10回総会は、金日成主席が幹部の党性、階級性、人民性を高め、人民経済の管理・運営を改善するための課題を示した会議である。

総会は、社会主義の全面的建設が強力に推進され、テアンの事業体系と新たな農業指導体系が確立されることによって、それに即して幹部の思想観点と活

動態度、活動方法と活動作風を根本的に改善し、人民経済に対する指導・管理水準を一段と高めることが重要な問題として提起されていた時期に開かれた。

総会で、金日成主席は**『幹部の党性、階級性、人民性を高め、人民経済の管理・運営を改善することについて』**と題する結語を述べた。

主席は結語で、幹部の党性鍛錬を強化し、活動方法を改善することについて強調した。真の党員となり、国家・経済機関の真の幹部となるためには、実際の行動によって党の政策を擁護、実行し、人民の利益のために献身的に闘わなければならないとし、幹部の党性は、党の政策を実行するための実際の闘争に、また労働者、農民、勤労インテリのための実際の活動の成果に現れなければならないと述べた。そして、幹部の間に見られる党性、労働者階級性、人民性に欠けた行為を指摘し、幹部の党性、労働者階級性、人民性を高めるための重要な方途として、幹部の党生活を強化することを強調した。

主席はまた、人民経済の管理・運営を改善するためのいくつかの問題について述べた。計画化の水準を高め、技術革命を力強く推し進め、労働行政を改

善し、国の経済管理を立派に行ううえで提起される課題について具体的に述べた。

総会は、幹部の間に現れていた活動上の欠陥を正し、発展する現実の要求に即して彼らの党性、労働者階級性、人民性を一段と高め、人民経済のすべての部門に対する指導を強化して社会主義建設をさらに促進するうえで大きな意義を有した。

77. 朝鮮労働党中央委員会第４期第13回総会はどんな会議なのか？

1966年３月末から４月初めまで平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第13回総会は、金日成主席が幹部の活動方法を改善し、指導水準を高めるための課題を示した会議である。

総会で、金日成主席は『**幹部の活動方法を改善し、指導水準をさらに高めるために**』と題する結語を述べた。

主席はまず、政治活動、対人活動に力を入れることについて述べた。政治活動、対人活動を正しく行うための具体的な課題を示し、まず中央の責任幹部が抜本的に活動方法を改めて、政治活動を優先させ、

対人活動を強化しなければならないと指摘した。

次に、幹部の間に革命的学習気風を確立することについて述べた。また、経済活動で当面解決すべき問題を示し、懸案をせん滅戦の方法で一つ一つ解決すべきであると指摘した。

総会は、発展する現実の要求に即して幹部の活動方法を改善し、指導水準を高めることによって党の指導的役割を強化するうえで重要な契機となった。

78．朝鮮労働党第２回代表者会はどんな会議なのか？

1966年10月、平壌で行われた朝鮮労働党第２回代表者会は、金日成主席が当時の情勢と国際共産主義運動の内部状況を科学的に分析し、それに基づいて朝鮮革命と世界革命発展のための党の対内対外活動方針を打ち出した会議である。

党代表者会は、米帝が社会主義諸国に対する侵略策動をエスカレートさせながら世界各地で平和を乱しており、左右の日和見主義者の策動のため社会主義諸国と国際共産主義運動に多くの複雑な問題が生じていた環境の中で開かれた。

党代表者会では１．現情勢とわが党の任務、２．社会主義経済建設の当面の課題について、３．ベトナム問題に関する朝鮮労働党代表者会の声明採択などについて討議した。

金日成主席は**『現情勢とわが党の任務』**と題する歴史的な報告を行った。

主席は報告で、当時の国際情勢と国際共産主義運動における問題を深く分析し、世界革命全般と国際共産主義運動を発展させるための科学的な道を示した。主席は、今日、世界革命の基本戦略は主として米帝に矛先を向けることであるとし、米帝とその同盟者に反対して闘わなければならないと強調した。また、左右の日和見主義を克服し、社会主義諸国の統一と国際共産主義運動の団結を成し遂げるための原則と方途を示した。

次に、経済建設と国防建設の並進路線を貫徹することについて強調した。今日、わが国における革命闘争と建設事業において最も重要なのは、当面する情勢の要求に即して社会主義建設の全般的事業を再編成し、特に敵の侵略策動に備えて国防力を一層強化できるよう、経済建設と国防建設を並進させる

ことであるとし、これは情勢の変化に伴ってわが党がすでに数年前から実行してきた基本的な戦略的方針であると述べた。

　主席は、革命隊伍の政治的・思想的統一団結を強化する活動と階級闘争を正しく結びつける問題、全社会を革命化、労働者階級化する問題などを新たに提起した。

　会議では、第１議題と第２議題に関する決定ならびにベトナム問題に関する朝鮮労働党代表者会の声明を全会一致で採択した。

　朝鮮労働党第２回代表者会は、金日成主席の周りに固く結束した全党の統一団結を誇示し、チュチェ思想に基づく党の自主路線と政策の正当性を実証した。また、米帝をはじめ帝国主義者に反対して断固闘い、労働者階級の革命偉業にあくまで忠実であろうとする朝鮮労働党の立場を表明した。会議は、共和国北半部で革命と建設を促進し、朝鮮革命の全国的勝利を早め、米帝をはじめ帝国主義者と日和見主義者に大きな打撃を与え、世界革命と国際共産主義運動をさらに発展させるうえで新たな転機となった。

79. 朝鮮労働党中央委員会第４期第14回総会はどんな会議なのか？

1966年10月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第14回総会は、金日成主席を朝鮮労働党中央委員会総書記に推戴した会議である。

会議は、党代表者会の決定「現情勢とわが党の任務」「社会主義経済建設の当面の課題について」を審議し、それを全会一致で承認した。会議は、党・国家事業で提起される問題を常時協議するために党中央委員会政治委員会内に常務委員会を組織することを決定し、金日成主席を首班とする党中央委員会政治委員会常務委員会を構成した。また、党中央委員会委員長、副委員長の職制を総書記、書記の職制に改革し、書記局を設置することを決定した。

会議は、党の創立者であり指導者である金日成主席を党中央委員会総書記に推戴した。

総会は、金日成主席の指導体系をさらに確立し、党を組織的、思想的にさらに強化するうえで重要な意義を有した。

80. 朝鮮労働党中央委員会第４期第15回総会はどんな会議なのか？

1967年５月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第15回総会は、金日成主席が党の唯一思想体系を確立するという革命的措置を講じた歴史的な会議である。

会議は、朝鮮革命の国際的環境が複雑をきわめ、党内に潜んでいたブルジョア分子、修正主義分子が頭をもたげて悪辣に策動していたため、党の唯一思想体系を確立する問題がいつにもまして重要かつ切実な問題として提起されていた時期に招集された。

会議では、ブルジョア分子、修正主義分子の罪業をことごとく暴露、粉砕した。何よりもまず、党の路線と政策を歪曲し、党の革命伝統をこきおろし、党員と勤労者の間に、革命伝統教育を否定し、党内にブルジョア思想、修正主義思想、封建的儒教思想など、あらゆる反党反革命的思想をまきちらして党と人民を思想的に武装解除させようとした者たちの策動を批判、暴露した。また、革命力量を分裂させて破壊し、階級敵と妥協するために党の階級路線と大衆路線をねじまげ、党の階級的陣地を切り崩そ

うとし、はては打倒された搾取階級の残存分子をひそかに押し立て、彼らの反革命的策動を積極的に庇護、助長し、南朝鮮革命と祖国統一に対する態度においても右傾投降主義の道へ転落したブルジョア分子、修正主義分子の罪業を暴露、批判した。そして、社会主義経済建設を妨げるためチョンリマ(千里馬)運動の発展を必死に妨害し、反動的で修正主義的な経済「理論」を復活させ、党の経済政策を意識的にねじまげて実行した彼らの罪業も全面的に批判、暴露した。

金日成主席は会議で、ブルジョア分子、修正主義分子の反党反革命的策動を粉砕するための断固たる措置を講じるとともに、その余毒を一掃し、党の唯一思想体系を確立するための党あげての闘いを展開し、党の組織規律を強化するという課題を示した。

会議は、党を強化し、党の唯一思想体系を確立するうえで重要な意義を有した。また、金日成主席を中心とする党の統一と団結をさらに強化し、全党と全社会をチュチェ思想で一色化するうえで画期的な契機となった。

81．朝鮮労働党中央委員会第４期第20回拡大総会はどんな会議なのか？

1969年12月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第４期第20回拡大総会は、金日成主席が社労青(朝鮮社会主義労働青年同盟)の活動を改善し、教育事業に対する党の指導を強化するうえで提起される課題を示した会議である。

拡大総会で、金日成主席は**『青少年に対する共産主義教育の諸問題』**と題する結語を述べた。

主席は結語で、まず社会主義教育学を完成させる問題をはじめ、社会主義教育を発展させるうえで提起される原則的問題を科学的に解明した。主席は、社会主義教育学で基本をなすのは、次代をみな革命化、労働者階級化して労働者階級の革命思想で武装させ、社会主義、共産主義偉業の勝利のために献身的に闘う真の共産主義的な人間、不屈の革命家としての風格と資質を備えるように教育することであると述べた。

また、社労青組織を活発に動く生きた革命組織につくり上げる問題、学校の社労青活動と少年団活動を強化する問題、各階層の青年との活動を正しく行う問題、青少年を革命的な文学・芸術作品によって

教育する問題など、社会主義労働青年同盟の機能と役割をさらに高めるうえで提起される重要な問題について述べた。

会議では、第５回党大会を1970年11月に招集することを決定し、党大会を革命と建設における輝かしい勝利をもって迎えるために全党員に送る手紙を採択した。

拡大総会は、社労青の活動と青少年の教育活動を改善、強化するという重要な課題を示すことによって、青少年を金日成主席に限りなく忠実な革命の継承者として育て上げるうえで重要な意義を有した。また、すべての党員と勤労者を高い政治的熱意と輝かしい勤労の成果をもって第５回党大会を迎えるよう立ち上がらせることによって、第１次７カ年計画のすべての目標を成功裏に達成するうえで大きな意義を有した。

82. 朝鮮労働党第５回大会はどんな大会なのか？

1970年11月、平壌で行われた朝鮮労働党第５回大会は、金日成主席が総括期間、チュチェ思想の全面的勝利を目指す闘争で収めた輝かしい成果を総括

し、社会主義の完全な勝利と革命の全国的勝利を早め、党を絶えず強化、発展させるための綱領的課題を提示した歴史的な大会である。

大会で、金日成主席は党中央委員会の活動報告を行い、結語を述べた。

主席は、総括期間、党の指導の下で革命と建設で収めた誇るべき成果を全面的に総括し、社会主義の完全な勝利と革命の全国的勝利を早め、党事業と党活動で提起される課題を示した。主席は新たな雄大な綱領である6カ年計画を打ち出し、その基本課題を提示した。6カ年計画の基本課題は、工業化の成果を強化、発展させ、技術革命を新たな高い段階に前進させて、社会主義の物質的・技術的土台を一層強固にし、人民経済のすべての部門で勤労者を骨の折れる労働から解放することである。主席は、重労働と軽労働の差、農業労働と工業労働の差を著しく縮め、女性を家事の重い負担から解放するという3大技術革命の課題を提示した。また、南朝鮮革命を発展させるための課題と祖国統一方針を示し、自主的な対外政策を闡明した。

主席は、総括期間、党建設と党活動で得た成果と

経験を全面的に総括し、党を組織的、思想的に強化、発展させ、党の指導的役割をさらに強めるという課題を示し、党活動の総体的課題を規定した。チュチェ思想を確固不動の指導思想として党内に唯一思想体系を一層強く確立し、それに基づいて党隊伍の思想・意志の統一を強める活動を総体的課題として掌握し、党活動を引き続き深化発展させていかなければならないとし、党活動の基本は対人活動、言い換えれば幹部と党員と大衆を一つの思想、意志で武装させて党の周りに固く結集し、彼らを党政策の貫徹へと奮起させる、人々に対する政治活動であるので、党活動を技術実務化しようとするあらゆる偏向に反対し、あくまでも対人活動に基本をおいて党活動を行わなければならないと述べた。党の思想活動分野における中心的課題は全党に唯一思想体系を確立する活動を引き続き着実に推し進めることであるとし、その具体的課題を提示するとともに、革命と建設に対する党の指導的役割をさらに強めるうえで提起される課題を示した。

大会では、全党員の一致した意思と願いをこめて金日成主席を再び朝鮮労働党中央委員会総書記に

推戴した。

朝鮮労働党第５回大会は、チュチェ思想の旗印の下に革命と建設で収めた誇るべき成果と社会主義的工業化の輝かしい勝利を総括した勝利者の大会であり、金日成主席を中心とする全党と全人民の確固不動の統一団結を誇示した団結の大会であった。大会は、すべての党員と人民に輝かしい展望と闘争目標を示すことによって、革命発展の新たな高い段階を切り開いた。

83. 朝鮮労働党中央委員会第５期第４回総会はどんな会議なのか？

1972年７月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第５期第４回総会は、金日成主席が祖国統一のための具体的な方途を新たに示し、全般的10年制高等中学義務教育を実施するという方針を提示した会議である。

会議では１．党中央委員会第５期第３回総会の決定「祖国の平和的統一のための党の政策」の実行状況と今後の対策について、２．全般的10年制高等中学義務教育を実施することについて討議した。

金日成主席は第１議題に関する報告を行った。主席は報告で、党中央委員会第５期第３回総会以後、党が祖国統一のために行った活動を分析し、今後の課題を示した。北南間の接触と対話で守るべき原則的問題を明らかにし、米帝とその手先の二面術策に常に警戒心を高め、敵のあらゆる挑発に主動的に対処しうる万全の準備を整えることについて強調した。会議は、主席が打ち出した祖国統一３大原則に基づく北南共同声明の発表は党の祖国統一方針の勝利となると指摘した。

会議で、主席は**『全般的10年制高等中学義務教育を実施するための課題』**と題する結語を述べた。主席は結語で、全般的10年制高等中学義務教育を成功裏に実施するためには、学校を多く建てるとともに、教員の問題を解決し、学用品を十分に準備しなければならないと述べた。そして、全般的10年制高等中学義務教育の実施に必要な条件を十分に整えるのは決して簡単なことではないとし、国家の負担が重くても必ず10年制高等中学義務教育を実施しなければならないと強調した。また、10年制高等中学義務教育を実施するのはきわめて膨大かつ困難

な事業であるだけに、それをいっぺんに実施することはできないので、条件が整うにつれて徐々に実施すべきであると述べた。各級党組織は10年制高等中学義務教育の重要性を深く認識し、この事業を積極的に推し進めなければならず、特に10年制高等中学義務教育を実施する準備活動は道党責任書記と郡党責任書記が直接掌握して推し進めるべきであると強調した。

総会は、金日成主席が打ち出した祖国統一３大原則に基づいて国の統一問題を解決するための闘いをより一層力強く展開しうる確固たる展望を開き、全般的10年制高等中学義務教育実施のための具体的な措置を講ずることによって、社会主義教育制度をさらに強化、発展させるうえで重要な契機となった。

84. 朝鮮労働党中央委員会第５期第６回総会はどんな会議なのか？

1972年12月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第５期第６回総会は、金日成主席が作成した**『朝鮮民主主義人民共和国社会主義憲法』**を最高人民会議の審議に移すことを決定した会議である。

会議は、社会主義建設の要求に即応した新しい憲法を制定することが重要な要求となっていた時期に招集された。

会議では、主席が作成した社会主義憲法の理論的・実践的意義、その構成体系、内容の独創性と優越性、革命性と人民性が強調された。『朝鮮民主主義人民共和国社会主義憲法』は他国の憲法とは区別される独創的な憲法であり、人民大衆の利益をあくまで擁護する最も民主主義的な憲法であり、チュチェ思想が立派に具現された偉大な憲法であると指摘した。また、社会主義憲法は、朝鮮人民が革命と建設で収めた成果を法的に固着させ、政治、経済、文化など社会生活の各分野の諸原則を正しく規制することによって、社会主義の完全な勝利と祖国統一の偉業を促進しうる法的保証となると強調した。

会議の参加者は主席が作成した『朝鮮民主主義人民共和国社会主義憲法』をこぞって支持賛同した。

85. 朝鮮労働党中央委員会第5期第8回総会はどんな会議なのか？

1974年２月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員

会第５期第８回総会は、金正日同志を金日成主席の後継者として、党と人民の指導者として推戴した歴史的な会議である。

総会では、すべての党員と人民の一致した願いと意思により金正日同志を金日成主席の唯一の後継者として、党と人民の英明な指導者として推戴した。

会議で行った報告で、金日成主席は、国防力を打ち固めるとともに、経済建設を力強く推し進めて６カ年計画のすべての目標を期限前に達成し、より速い速度で引き続き革新を起こして近い将来に社会主義経済建設の10大展望目標を必ず達成するという課題を示した。会議では、すべての力を社会主義大建設に総動員することを呼びかけて全党員に送る党中央委員会の手紙を採択した。

会議は、租税を完全に廃止する問題を最高人民会議の審議に移し、工業製品の価格を大幅に引き下げる問題を中央人民委員会（当時）の審議に移すことを決定した。

総会は、チュチェの革命偉業を継承し完成するための確固たる保証をもたらした歴史的な会議であり、社会主義建設で一大高揚を起こし、朝鮮の社会

主義制度の優越性をより高く発揮させるうえで重要な契機となった。

86. 朝鮮労働党中央委員会第５期第10回総会はどんな会議なのか？

1975年２月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第５期第１0回総会は、金日成主席が当時の情勢に関連して、党、政権機関、人民軍をさらに強化し、社会主義建設を促進して革命的大事変を成功裏に迎えるという課題を提示した会議である。

会議では１．偉大な領袖金日成同志が提示した思想、技術、文化の３大革命遂行のための指導活動状況について、２．朝鮮労働党創立30周年に際する党中央委員会のスローガンについて討議した。

会議で、金日成主席は**『党、政権機関、人民軍をさらに強化し、社会主義大建設を立派に行って革命的大事変を成功裏に迎えよう』**と題する結語を述べた。主席は結語で、党創立30周年を勝利者の大祝典として迎えることについて強調した。そして、当時の情勢を分析し、革命的大事変を成功裏に迎えるために、党、政権機関、人民軍をさらに強化し、社会

主義建設を一層立派に行う課題を具体的に提示した。革命的大事変を成功裏に迎えるためには、何よりもまず党を強化しなければならないとし、幹部と党員をチュチェ思想で武装させることについて強調した。党を強化するためには、党生活を強化し、幹部と党員を革命的世界観で武装させるとともに、党の規律を強め、党の活動方法を改善し、勤労者団体に対する指導を強化し、各級党委員会を固めなければならないと述べた。

会議では、朝鮮労働党創立30周年に際する党中央委員会のスローガンを採択した。

総会は、当時の情勢に対処して主体的革命勢力をさらに強化し、社会主義大建設で今一度革命的高揚を起こす画期的な契機となった。

87. 朝鮮労働党中央委員会第５期第14回総会はどんな会議なのか？

1977年９月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第５期第14回総会は、金日成主席が『社会主義教育に関するテーゼ』を発表した会議である。

会議は、朝鮮で思想、技術、文化の３大革命が力

強く繰り広げられている現実に即して、社会主義教育事業をさらに発展させることが切実な要求となっていた時期に招集された。

会議で、金日成主席は**『社会主義教育に関するテーゼ』**を発表した。主席はテーゼで、社会主義教育の目的と使命を明らかにし、社会主義教育学の基本原理を定式化した。社会主義教育学の基本原理は人々を革命化、労働者階級化、共産主義化すること、つまり人々を共産主義的革命思想で武装させ、そのうえで深い科学知識と壮健な体力を持たせることであると指摘した。社会主義教育学の基本原理を具現するためには、教育において党性、労働者階級性を堅持し、主体性を確立し、教育と革命実践を結びつけ、国家が責任を持って教育事業を行う原則を守らなければならないと指摘した。社会主義教育の内容と方法を明示し、朝鮮の社会主義教育制度の本質と優越性を明らかにし、それを強化、発展させるための課題を示した。社会主義教育を立派に行うためには、教育機関の機能と教育者の役割を高め、教育事業に対する党の指導と国家の保障、社会的支援を確実に実現しなければならないと指摘した。教育活

動に対する党の指導の強化は、社会主義教育を徹底的に党的教育、労働者階級的教育として発展させ、教育事業におけるすべての問題を成功裏に解決するための決定的な裏付けであるとし、教育事業に対する党の指導の本質をはじめ教育事業に対する党の指導で提起される原則的問題を全面的に明らかにした。

会議では、すべての参加者の熱烈な支持と賛同の下に『社会主義教育に関するテーゼ』を社会主義教育事業において党の指導指針となる綱領的文献として採択した。

88. 朝鮮労働党中央委員会第５期第16回総会はどんな会議なのか？

1978年１月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第５期第16回総会は、金日成主席が党員と勤労者を第２次７カ年計画遂行のための闘いに立ち上がらせるために、全党員に送る党中央委員会の手紙を採択するようにした会議である。

会議は、社会主義建設の雄大な綱領である第２次７カ年計画の遂行に国の総力を動員することが切

実な要求となっていた時期に招集された。
会議では、全党員に送る党中央委員会の手紙を採択することについて討議した。
会議で、金日成主席は**『第２次７カ年計画を繰り上げて遂行する闘いに党員と勤労者を奮起させよう』**と題する演説を行った。主席は、これまで全党員に手紙を送って革命闘争と建設事業に新たな一大高揚をもたらしたように、このたびも全党員に手紙を送って、社会主義建設の雄大な綱領である第２次７カ年計画の高い目標を達成する闘いに党員と勤労者を立ち上がらせなければならないと述べた。そして、第２次７カ年計画の雄大な課題を成功裏に遂行するためには、幹部が仕事の手配を綿密に行わなければならないとし、経済幹部は経済組織活動を一層綿密に行い、各道・市・郡党の責任幹部は工場、企業に対する指導を強化し、道・市・郡人民委員長は人民の忠僕らしく仕事に励まなければならないと強調した。
会議では、全党員に送る党中央委員会の手紙を全会一致で採択した。
党中央委員会の手紙は、第２次７カ年計画の高い目標を繰り上げて達成する闘いにすべての党員と

勤労者を立ち上がらせる戦闘的な旗印となった。

89. 朝鮮労働党第６回大会はどんな大会なのか？

1980年10月、平壌で行われた朝鮮労働党第６回大会は、金日成主席が総括期間、党が革命と建設で収めた誇るべき成果を全面的に総括し、全社会のチュチェ思想化を実現し、朝鮮革命と世界革命を推進するための戦闘的課題と党建設分野の綱領的課題を提示した歴史的な大会である。

大会は、金日成主席と金正日総書記の指導の下に朝鮮革命が新たな転換期に入っていた重大な時期に招集された。

大会で、金日成主席は党中央委員会の活動報告を行った。

主席は、第５回党大会以後、党の指導の下に革命と建設で収めた輝かしい成果を全面的に総括し、党と人民に新たな闘争課題を提示した。党と人民には革命闘争と建設事業をさらに力強く推し進めて全社会のチュチェ思想化を実現すべき重大な課題が提起されているとし、全社会のチュチェ思想化は朝鮮革命の総体的任務であると指摘した。全社会をチ

ュチェ思想化するためには自主的立場と創造的立場を堅持し、思想、技術、文化の３大革命路線を貫徹しなければならないと指摘し、社会の全構成員を革命化、労働者階級化、インテリ化し、人民経済を主体化、近代化、科学化するうえで提起される課題を具体的に示した。1980年代の社会主義経済建設の基本課題は、完全に勝利した社会主義社会にふさわしい強固な物質的・技術的土台を築き、人民の物質・文化生活を画期的に向上させることであるとし、1980年代に到達すべき社会主義経済建設の10大展望目標を提示した。

主席は報告で、高麗民主連邦共和国を創立するという新たな祖国統一方案を打ち出し、統一国家の10大施政方針を示した。また、党の自主的な対外政策を再度闡明し、自主、親善、平和を対外政策の基本理念として規定した。

そして、総括期間、党活動で収めた主な成果は、革命偉業を最後まで成し遂げ、党を永久にチュチェの党として強化、発展させる強固な組織的・思想的基礎が築かれたことであると強調し、党活動で提起される綱領的課題は、全党に唯一思想体系をさらに

強く確立することであり、対人活動を強化して党隊伍と革命隊伍を固め、思想活動をさらに強化して党の栄えある革命伝統を継承し発展させ、革命と建設に対する党の指導を強め、党活動方法を絶えず改善することであると指摘した。

大会では、全党員の一致した意思と願いを反映して金日成主席を朝鮮労働党中央委員会総書記に、金正日同志を党中央委員会政治局常務委員会委員、党中央軍事委員会委員、党中央委員会書記に推戴した。

大会は、チュチェ思想の全面的な勝利と党の不敗の威力を内外に広く誇示した勝利者の大会、朝鮮革命の勝利の前進とチュチェ偉業の完成のための確固たる保証をもたらした歴史的な大会として、社会主義の完全な勝利と全党と全社会のチュチェ思想化偉業をさらに力強く推し進めるうえで重要な契機となった。

90. 朝鮮労働党中央委員会第６期第３回総会はどんな会議なのか？

1981年４月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員

会第６期第３回総会は、金日成主席がテアン(大安)の事業体系を立派に貫徹して工場の管理・運営に新たな転換をもたらすための課題を提示した会議である。

会議は、第６回党大会の決定と第２次７カ年計画の雄大な綱領を成功裏に遂行するために、テアンの事業体系の要求通りに工場の管理・運営をさらに改善することが重要な問題として提起されていた時期に招集された。

会議で、金日成主席は**『テアンの事業体系を立派に貫徹して工場の管理・運営を改善しよう』**と題する結語を述べた。主席は結語で、工場の管理・運営に新たな転換をもたらすための課題を示した。工場の管理・運営の実態を具体的に分析し、工場の管理・運営に新たな転換をもたらすためには、何よりもまずテアンの事業体系を立派に貫徹しなければならないと指摘した。そのためには工場党委員会の役割を強めなければならないとし、工場党委員会の集団指導はテアンの事業体系の核心であり、したがって工場党委員会は集団指導を強化しなければならないと強調した。そして、各級党組織は経済幹部

の責任感と役割を強め、彼らに対する党としての教育を強化するとともに、彼らの間で革命的鍛練を強め、組織観念と水準を高めるための闘いを力強く繰り広げなければならないと指摘した。また、設備管理、資材管理、労働力管理、財政管理に力を入れ、企業管理を正規化、規範化し、３大革命グループの役割を強めなければならないと述べた。

総会は、工場党委員会と各級党組織の役割を強めてテアンの事業体系を貫徹し、工場の管理・運営を抜本的に改善することによって、社会主義経済建設を一層力強く推し進めるうえで重要な契機となった。

91. 朝鮮労働党中央委員会第６期第９回総会はどんな会議なのか？

1984年７月、朝鮮の東北部清津（チョンジン）で行われた朝鮮労働党中央委員会第６期第９回総会は、金日成主席が率いる朝鮮民主主義人民共和国の党及び国家代表団がソ連と東欧社会主義諸国の訪問で収めた成果を総括し、党の対外政策を貫徹するうえで提起される課題について討議した会議である。

総会は、朝鮮民主主義人民共和国の党及び国家代

表団のソ連と東欧社会主義諸国に対する訪問は、社会主義の優越性と生命力を実証し、社会主義諸国と国際共産主義運動の統一と団結を誇示した歴史的な訪問であったと指摘した。また、帝国主義者の侵略と戦争策動を阻止、破綻させ、アジアとヨーロッパ、世界の平和と安全を守るうえで大きな貢献をなした歴史的な訪問であったと指摘した。そして、朝鮮の革命偉業に対する国際連帯を強めるうえで画期的な契機となり、社会主義諸国との経済及び科学技術上の交流と協力をさらに深める強固な基礎を築いた歴史的な訪問であったと強調した。

総会は、社会主義偉業全般を推し進め、世界平和を守り、朝鮮の革命と建設において一大高揚を起こすうえで大きな意義を有した。

92. 朝鮮労働党中央委員会第６期第19回総会はどんな会議なのか？

1991年12月24日、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第６期第19回総会は、金正日同志を朝鮮人民軍最高司令官に推戴し、祖国の自主的平和統一を促進するための課題を示した歴史的な会議である。

総会では、朝鮮労働党中央委員会政治局常務委員会委員であり、党中央委員会書記である金正日同志を朝鮮人民軍最高司令官に推戴した。

総会は、1990年に第１回北南高位級会談が開かれた時から１年３カ月にわたって真摯な討議を重ね、第５回会談で、北南間の政治的・軍事的対決状態を解消し、多面的な協力と交流を実現するための包括的な合意文書である「北南間の和解と不可侵及び協力、交流に関する合意書」を採択、発表し、朝鮮半島の核問題を早急に解決するための双方の代表接触を持つことになったことを高く評価した。そして、平和と平和統一の新たな里程標となる歴史的な合意文書を採択することができたのは、全的に、金日成主席が最も合理的かつ現実的な平和綱領と統一路線を打ち出し、金正日総書記がそれを実現するための闘いを賢明に導いてきたたまものであると指摘した。また、北南間にようやくもたらされた平和と統一促進綱領を大切にし、それを誠実に履行することが重要であると強調し、北と南が国の自主的平和統一のために朝鮮半島の平和を保障し、北南間の和解と団結、多面的な協力と交流を実現すべきであ

ると指摘した。そして、国の統一をいかなる外部勢力の干渉も受けることなく民族自身の力で解決しようとするのは、党が一貫して堅持している確固たる立場であると強調した。

総会は、合意文書履行のための分科委員会を設置する問題をはじめ、各分野で講じるべき対策と課題を示した。

総会は、金正日総書記を革命武力の首位に戴くことによって、チュチェの革命偉業をあくまで成し遂げるための確固たる保証をもたらした。また、国の平和と平和統一を目指す朝鮮人民の闘争において画期的転換の契機となった。

93．朝鮮労働党中央委員会第６期第21回総会はどんな会議なのか？

1993年12月、平壌で行われた朝鮮労働党中央委員会第６期第21回総会は、金日成主席が第３次７カ年計画の遂行状況を総括し、当面の経済建設の方向を明示した会議である。

総会では、金日成主席が重要な結語を述べた。

総会は、党と領袖の周りに一心団結した朝鮮人民

の英雄的闘争、朝鮮の社会主義自立的民族経済の威力と生命力によって、第３次７カ年計画期間、激変する情勢と重なる困難の中でも、社会主義経済建設と人民生活の向上において大きな成果が収められたと指摘した。また、第３次７カ年計画期間に、工業部門が急速な発展を遂げ、農村技術革命が積極的に推進されて水利化と電化が高い水準で完成し、機械化、化学化に転換がもたらされたとし、科学、教育、文化、保健医療事業が一層発展し、人民生活が向上したと指摘した。

総会は、今後２～３年間を社会主義経済建設の調整期とし、この期間に農業第一主義、軽工業第一主義、貿易第一主義の方向に進むという戦略的方針を打ち出した。そして、社会主義経済建設の新たな戦略的方針を貫徹して、近い将来に白米の飯に肉汁を食べ、絹の服を着て瓦ぶきの家に住みたいという朝鮮人民の宿望を実現し、国の自立的経済の土台を磐石のように固めなければならないと指摘した。

総会は、人民大衆中心の社会主義を固守し、輝かせ、チュチェの革命偉業を成功裏に達成するための朝鮮人民の闘いにおいて重要な契機となった。

94. 党創立記念塔はどんな記念碑なのか？

党創立記念塔は、チュチェ型の革命的党建設偉業における金日成主席の業績を末長く伝えるために建てられた記念塔である。金日成主席と金正日総書記の銅像がある万寿台（マンスデ）大記念碑の向こう側の平壌市大同江（テドンガン）区域紋繡（ムンス）通りに位置する党創立記念塔は、1995年10月10日、朝鮮労働党創立50周年に際して建てられた。

総敷地面積25万余㎡の記念塔は、労働者、農民、知識人が握っているハンマーと鎌、筆を形象化した高さ50ｍ の塔身と、「朝鮮人民のすべての勝利の組織者であり、導き手である朝鮮労働党万歳!」というスローガンを浮き彫りにした円形帯、「ㅌ.ㄷ」を根源とする党の長い歴史を意味する基壇、党の栄光に満ちた歴史的道程と誇るべき威容を生き生きと示す銅のレリーフからなっている。

記念塔は、労働者、農民、知識人を構成部分とする自主時代の新しい型の党、チュチェ型の大衆的党としての朝鮮労働党の性格と、長期にわたる聖なる闘争によって自主偉業遂行の模範を創造し、革命的党建設の新しい道を切り開いた党の大きな業績を集

約的に示している。また、領袖の周りに一心団結した朝鮮労働党の不敗の威力と高い威信を示し、金日成主席と金正日総書記の思想と偉業をあくまで継承しようとする党と人民の確固たる意志を反映している。

95．朝鮮労働党中央委員会、党中央軍事委員会の特別報道はどんな報道なのか？

1997年10月８日、平壌では朝鮮労働党中央委員会、朝鮮労働党中央軍事委員会の特別報道が発表された。

「…朝鮮労働党中央委員会と党中央軍事委員会は、全党の意思に基づき、30余星霜の長期間、不眠不休の革命活動によってわが党を百戦百勝の老練かつ洗練された革命的党、全人民の絶対的な支持と信頼を受ける不敗の党として強化、発展させ、朝鮮人民を不屈の信念と意志を持つ自主的人民に育て上げるとともに、この地に金日成民族の隆盛と繁栄の新時代を切り開いたわが党と人民の偉大な指導者金正日同志がわが党の公認された総書記に推戴されたことを厳かに宣言する。…」

金正日同志が朝鮮労働党総書記に推戴されたことは、つとに革命活動を始めた時から金日成主席の

偉業を達成することを畢生の使命とし、常に金日成主席とともに人民のためにすべてを捧げてきた金正日同志の偉大な思想と非凡な指導力、崇高な品格、不滅の功績によってそなわった絶対的な威信と、全党、全人民の限りない信頼と敬慕の念の表れであった。

金正日同志を党の総書記に推戴することによって、朝鮮革命の団結の中心、指導の中心は一層確固たるものとなり、金正日同志の周りに固く結束した革命隊伍の一心団結の威力が一段と強まり、朝鮮の社会主義偉業と祖国統一偉業、世界社会主義運動の前途により明るい展望が開けた。

金正日同志が朝鮮労働党総書記に推戴されたことは、党と革命の発展、社会主義朝鮮と朝鮮民族の無窮の隆盛・繁栄をもたらすうえで実に大きな歴史的意義を有する画期的な出来事であった。

96. 朝鮮労働党第３回代表者会はどんな会議なのか？

2010年９月、平壌で行われた朝鮮労働党第３回代表者会は、金正日総書記を朝鮮労働党総書記として変わることなく高く戴き、金正恩同志を朝鮮労働党

中央軍事委員会副委員長に推戴した歴史的な会議である。

党代表者会では、すべての党員と人民軍将兵、人民の一致した意思と願いをこめて、朝鮮労働党の創立者であり、党と革命を百戦百勝の道に導いてきた金日成主席を党の最高指導機関に永遠に戴くことを宣言した。また、金正日総書記を党総書記として変わることなく推戴する決定書が、すべての参加者の嵐のような歓呼の中で全会一致で採択された。そして、チュチェの革命偉業をあくまで継承し達成せんとする全党と全人民の不動の信念をこめて、金正恩同志を朝鮮労働党中央軍事委員会副委員長に推戴した。

党代表者会は、朝鮮労働党の偉大な歴史と伝統を限りなく輝かせ、党の威力を一段と強めるうえで画期的な意義を有する契機となった。

97. 朝鮮労働党第４回代表者会はどんな会議なのか？

2012年４月11日、平壌で行われた朝鮮労働党第４回代表者会は、金正日総書記を朝鮮労働党総書記として永遠に高く戴き、その革命的生涯と不滅の業績

を末長く輝かせるという決定を採択し、金正恩同志を朝鮮労働党第１書記に推戴した歴史的な会議である。

　チュチェの先軍革命偉業、社会主義強盛国家建設偉業において画期的な転換がもたらされ、金日成朝鮮の新しい100年代が始まる歴史的時期に開かれた朝鮮労働党第４回代表者会は、全国の党員と人民軍将兵、人民の一致した意思と願いを反映して、金正日総書記を朝鮮労働党総書記として永遠に高く戴き、その革命的生涯と不滅の業績を末長く輝かせるという決定書を採択した。決定書は、金日成主席とともに金正日総書記が生前の姿のまま安置されている錦繡（クムス）山（サン）太陽宮殿をチュチェの最高聖地としてより厳かに整備し、全国各地に金正日総書記の銅像と太陽像を丁重に建て、永生塔を建立する事業に最大の誠意を尽くすであろうと指摘した。そして、すべての部門、すべての単位で金正日総書記の不滅の指導業績を固守し、輝かせる活動を絶えず深化させるであろうと指摘した。また、偉大な金日成・金正日主義の旗印を高く掲げて、全党と全社会の思想的一色化をより高い水準で実現し、すべての活動を金日成主席式、金正日総書記式に行うであろうと指摘した。決定書

は、金正日総書記の遺訓を寸分の譲歩も狂いもなく貫徹し、自主の道、先軍の道、社会主義の道をあくまで進むであろうし、金正日総書記の遺訓通りに金正恩同志を中心とする党と革命隊伍の一心団結を全面的に強化し、金正恩同志の思想と指導に忠実に従うであろうと指摘した。そして、政治・思想強国、軍事強国の地位を固めながら、経済強国の確固たる土台を築く歴史的課題を完遂し、社会主義強盛国家を全面的に建設する新たな高い段階に入るであろうし、経済・文化建設の各分野で大飛躍、大変革を起こして知識経済強国、社会主義文明強国を打ち立てるであろうと指摘した。また、金正日総書記の願い通りに祖国統一偉業を必ず成し遂げ、世界自主化偉業の勝利の前進を力強く促すであろうと指摘した。

代表者会は、金正日総書記の遺訓を体して、金正恩同志を朝鮮労働党第１書記に推戴した。

金正恩同志を党の首位に高く戴いたことは、朝鮮人民のすべての勝利の組織者であり導き手である朝鮮労働党の強化、発展において大きな意義を有する歴史的な出来事であった。

98．朝鮮労働党中央委員会2013年３月総会はどんな会議なのか？

朝鮮労働党中央委員会2013年３月総会は、金正恩第１書記が経済建設と核武力建設を並進させるという新たな戦略的路線を打ち出した会議である。

総会では、金正恩第１書記が歴史的な報告を行い、結語を述べた。

総会では、時代と革命発展の要求に即して経済建設と核武力建設を並進させるという戦略的路線が示された。米国が朝鮮の自主権と生存権を核をもって厳重に脅かしている状況下で、朝鮮が核武力を質量的にさらに強化するのは正義の選択であり、断固たる政治的決断である。断固たる攻撃戦によって反米対決と社会主義強盛国家建設で最後の勝利を勝ち取ろうというのが、党中央委員会2013年３月総会の基本精神である。

総会は、偉大な金日成・金正日主義の旗印を高く掲げて自主の道、先軍の道、社会主義の道を力強く進む朝鮮の軍隊と人民の闘いを大いに鼓舞激励し、強盛国家の建設と祖国統一の革命的大事を早めるうえで重要な里程標をもたらした歴史的な会議である。

99. 朝鮮労働党中央委員会2015年２月政治局拡大会議はどんな会議なのか？

2015年２月に行われた朝鮮労働党中央委員会政治局拡大会議は、金正日総書記の遺訓を党と革命の永遠なる指針とし、あくまで貫徹する問題を討議、決定した会議である。

会議では、決定書「偉大な金正日同志の遺訓をわが党と革命の永遠なる指導指針とし、あくまで貫徹することについて」が採択された。

決定書は第一に、金正日総書記の遺訓を貫徹することを第一義的な事業としてとらえ、寸分の狂いもなく、一歩の譲歩もなく無条件にあくまで貫徹すること、第二に、権柄と官僚主義、不正腐敗との闘争を強力に展開すること、第三に、各級党組織と政治機関が党中央委員会政治局の決定書を貫徹するための組織・政治活動を綿密に行い、その実行状況を日常的に掌握、指導することによって、決定書に示された課題をあくまで貫徹すること、第四に、内閣をはじめ当該機関が党中央委員会政治局の決定書に示された課題を貫徹するための行政実務的対策を講じることについて強調した。

会議では、金正恩第１書記が結語を述べた。

党中央委員会2015年２月政治局拡大会議は、金正日総書記を永遠なる領袖としてとわに高く仰ぎ、その遺訓を立派に実現してチュチェの革命偉業の最後の勝利を早めるうえで画期的な契機となった。

100. 朝鮮労働党第７回大会はどんな大会になるのか？

朝鮮労働党の創立者である金日成主席と党の永遠なる総書記である金正日総書記の指導の下に、朝鮮労働党はすぐる70余星霜、朝鮮人民のすべての勝利の組織者、導き手としての役割を立派に果たしてきた。

今日、朝鮮労働党には、金正恩第１書記の指導の下に、金日成主席と金正日総書記の遺訓を永遠なる指導指針とし、社会主義強盛国家の建設において一大高揚をもたらし、党を偉大な金日成、金正日同志の党として一層強化、発展させ、その指導的役割を強めてチュチェの革命偉業の最後の勝利を早めるべき重大かつ聖なる革命任務が提起されている。

朝鮮労働党中央委員会政治局は、チュチェの革命

偉業、社会主義強盛国家建設偉業の遂行において世紀の変革が起きている党と革命発展の要求を反映して、第７回党大会を2016年５月初めに招集することを決定した。

朝鮮労働党第７回大会は、チュチェの革命偉業遂行における歴史的な分水嶺として、金日成主席と金正日総書記の賢明な指導の下に党が革命と建設で収めた成果を誇り高く総括し、朝鮮革命の最後の勝利を早めるための素晴らしい青写真を示すであろう。

朝鮮労働党について

総編集　　　　金志豪
翻　訳　　　　徐正次
レイアウト　方成姫　金正蓮
イラスト　　　金恩正
発行所　　　　外国文出版社
発　行　　　　チュチェ105(2016)年４月

ㄱ-683533

E-mail：flph@star-co.net.kp
http：//www.naenara.com.kp

朝鮮・平壌

チュチェ105(2016)

ISBN 978-9946-0-1473-9